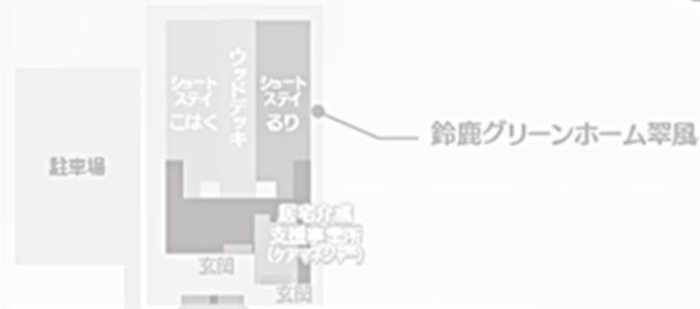


鈴鹿グリーンホームの 介護現場革新の取り組み



鈴鹿グリーンホーム



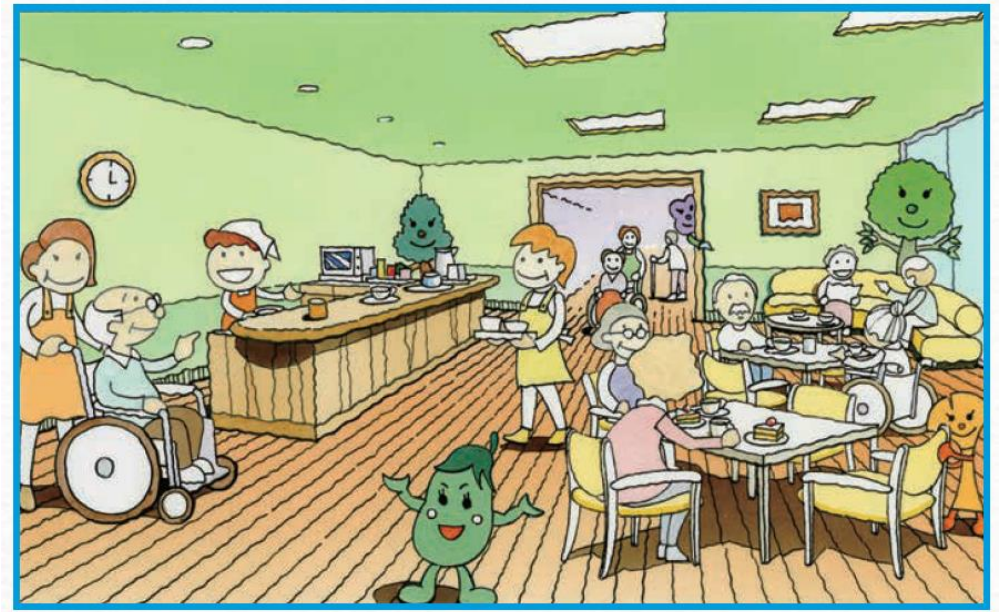
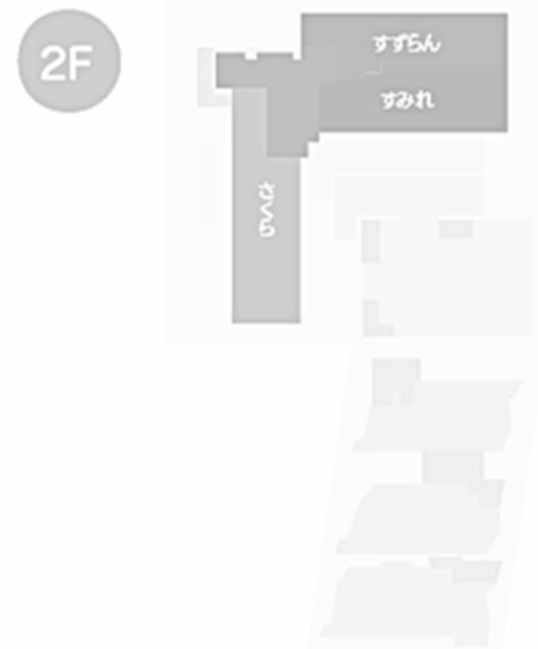
常に介護が必要で、ご自宅での生活が困難な方が入居し、個別ケアプラン(介護計画)に基づいた日常生活全般の支援を行います。(原則要介護3の方)

暮らす

➤ 特別養護老人ホーム
(ユニット型個室80床・8ユニット)



鈴鹿グリーンホーム

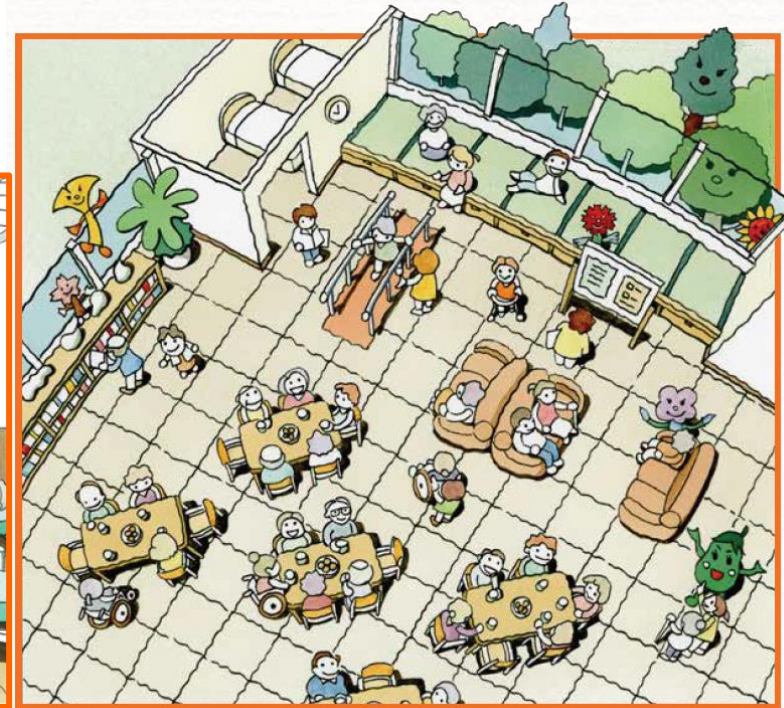
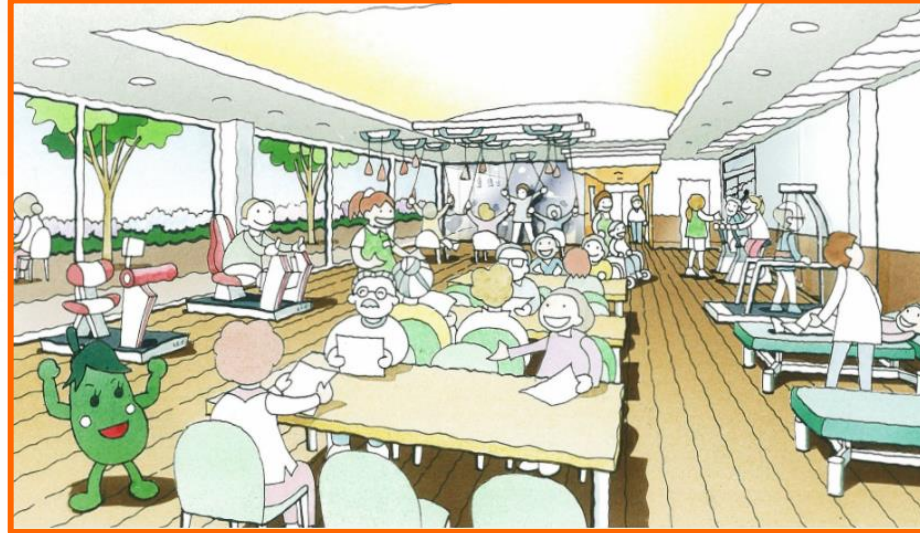


泊まる > ショートステイ
(ユニット型個室10床・1ユニット)

介護をしている家族が、冠婚葬祭や病気・出産、休養や旅行等により、一時的に自宅での介護が出来なくなったときに、1泊2日から1月程度ご利用していただけます。(要支援・要介護対象)



鈴鹿グリーンホーム

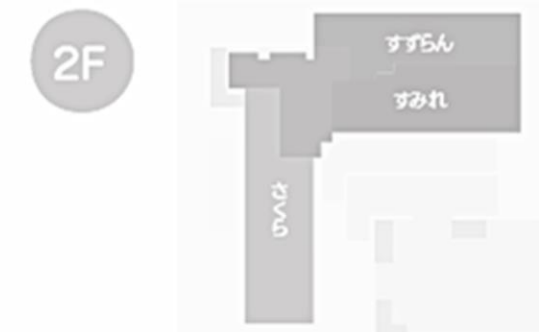


通う > デイサービスセンター (定員70名)

送迎、健康チェック、日常生活上の介護、入浴、機能訓練、食事・おやつ、アクティビティ(レクリエーション)など、ご本人に応じたケアやメニューを提供します。(要支援1・2、要介護1～5、総合事業対象者の方)

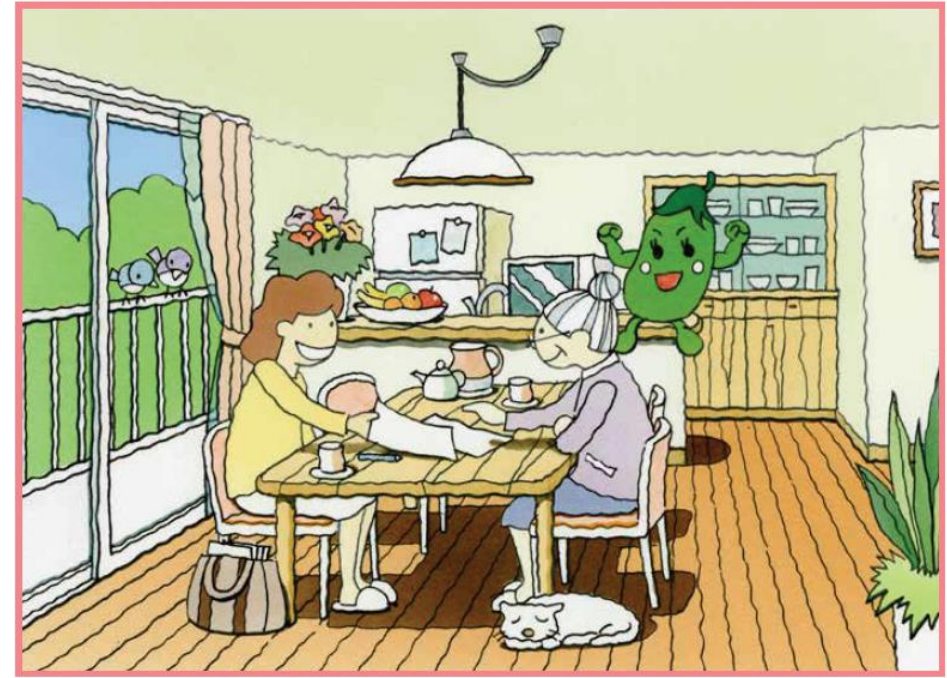


鈴鹿グリーンホーム

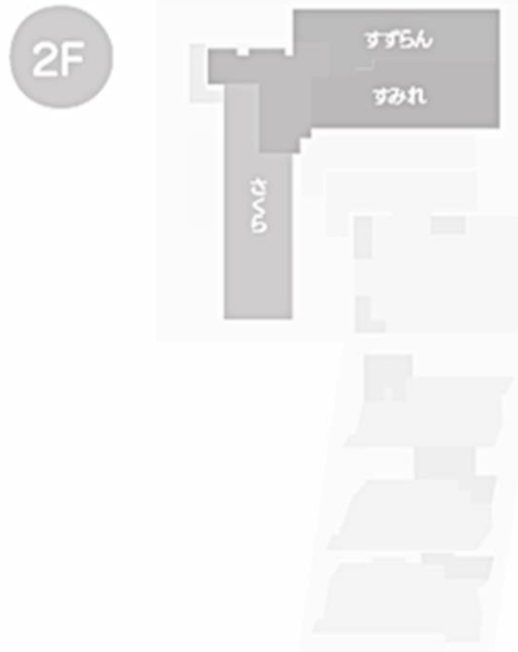


ケアプラン > 居宅介護支援事業所 (ケアマネジャー)

ケアマネジャー(介護支援専門員)の資格を持った職員が、ご本人の心身の状況やご家族のご希望に沿ったケアプラン(介護サービス計画)を作成します。サービス事業者への連絡調整や利用の手配などを行います。



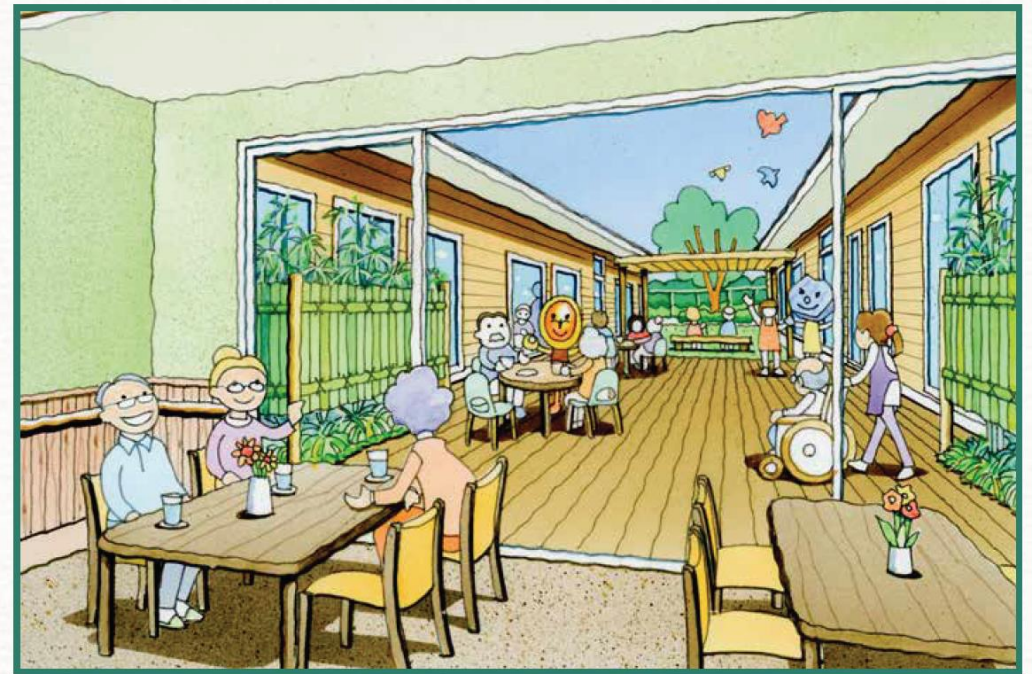
鈴鹿グリーンホーム



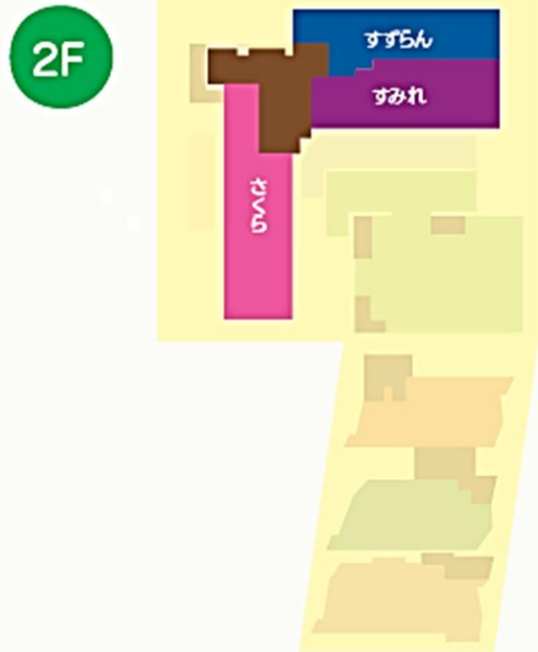
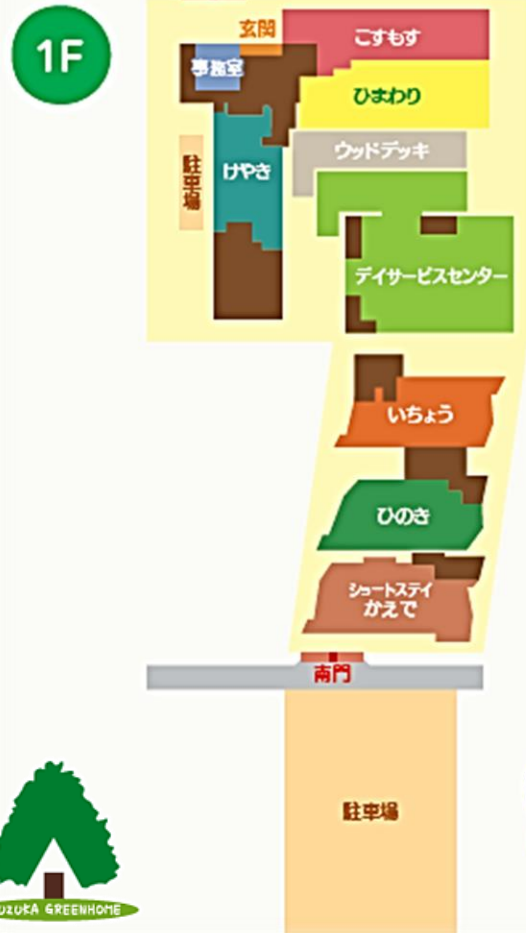
泊まる

➤ ショートステイ
(ユニット型個室20床・2ユニット)

介護をしている家族が、冠婚葬祭や病気・出産、休養や旅行等により、一時的に自宅での介護が出来なくなったときに、1泊2日から1月程度ご利用していただけます。(要支援・要介護対象)



鈴鹿グリーンホーム



泊まる

➤ ショートステイ
(ユニット型個室20床・2ユニット)

ケアプラン

➤ 居宅介護支援事業所
(ケアマネジャー)

暮らす

➤ 特別養護老人ホーム
(ユニット型個室80床・8ユニット)

泊まる

➤ ショートステイ
(ユニット型個室10床・1ユニット、共生型短期入所指定)

通う

➤ デイサービスセンター
(定員70名・共生型生活介護指定)

地域生活を 支える

➤ フレイル予防デイリーアクションプログラム
【鈴鹿市受託事業、地域住民対象 介護予防教室】※地域(公民館等) 又はデイサービスで開催(Webも可能)

「6つの高齢者福祉・支援サービス」⁷

- ケアプラン作成
- デイサービスのご利用
- ショートステイのご利用
- 介護予防教室へのご参加
- 特別養護老人ホームの入居 など

介護に関するご相談をお受けいたします

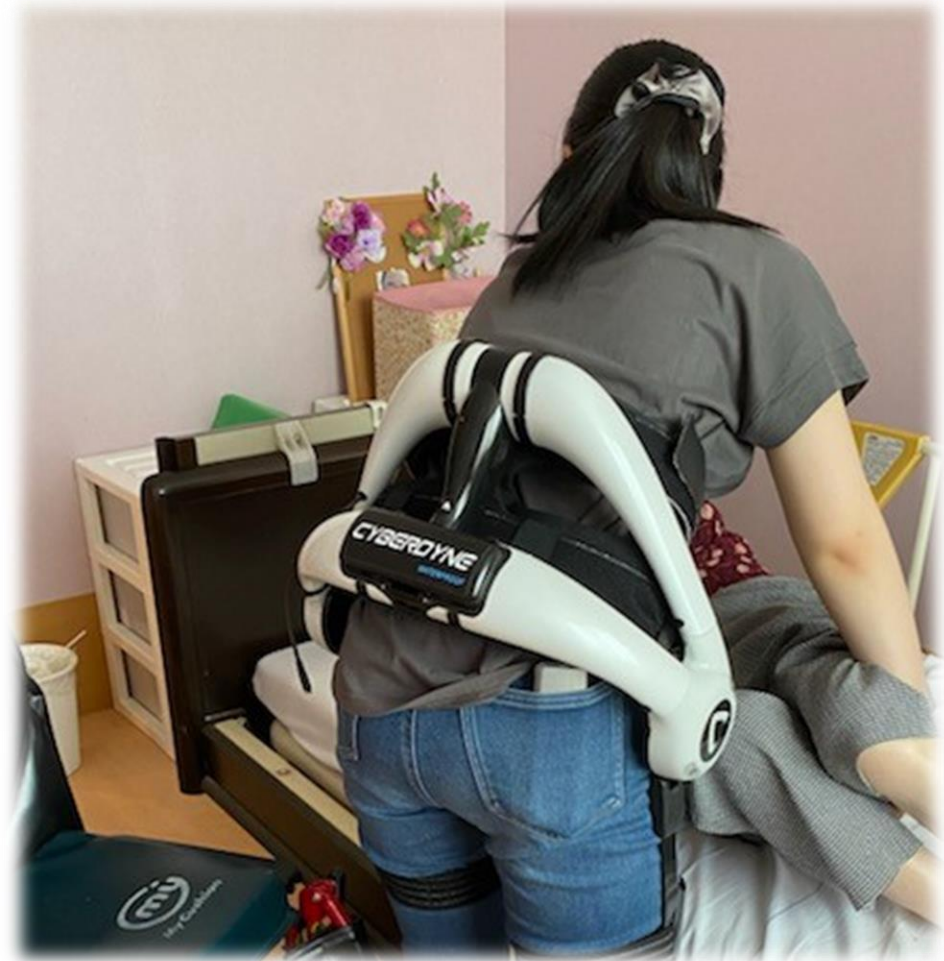
鈴鹿グリーンホームの介護サービスの特徴



介護ロボット・介護機器 (テクノロジー)の活用

職員の腰痛予防（装着型ロボット）

HAL[®]（パワースーツ）



特別養護老人ホーム 1台(2017年導入～2022.4(使用期限満了につき返却))

職員の腰痛予防（装着型ロボット）

マッスルスーツ(パワースーツ)



特別養護老人ホーム 1台(2018年導入)



職員の腰痛予防（装着型ロボット）

J-PAS（パワースーツ）

ショートステイの送迎業務にも使用



特別養護老人ホーム・ショートステイ 1台(2021年導入)



職員の腰痛予防（非装着型ロボット）

i-PAL(アイパ°ル)



特別養護老人ホーム 1台(2017年導入)

職員の腰痛予防（非装着型ロボット）

SASUKE(サスケ)



特別養護老人ホーム 1台(2021年導入)



職員の腰痛予防（介護機器）

電動リフト (居室で使用)



特別養護老人ホーム・ショートステイ 計3台(2011年～導入)



職員の腰痛予防（介護機器）

電動リフト
(浴室で使用)



特別養護老人ホーム・ショートステイ 5台(2014年～導入)



職員の腰痛予防（介護機器）

電動リフト
(スカリフト、トイレで使用)



デイサービスセンター 1台(2021年導入)



職員の腰痛予防（機械式浴槽）

機械式個浴



特別養護老人ホーム・デイサービスセンター 計6台(2008年～導入)



職員の腰痛予防（機械式浴槽）

車いす式 機械浴



特別養護老人ホーム・デイサービスセンター
計2台(1994年～導入)

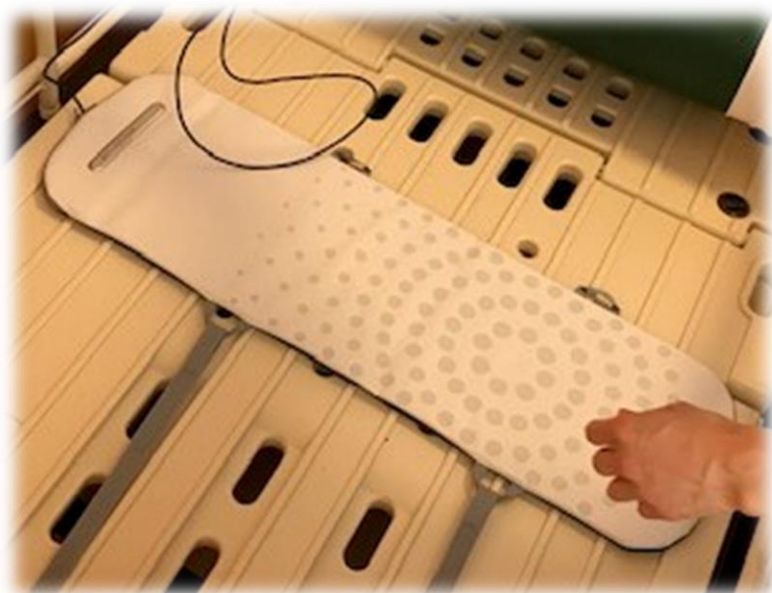
寝台式機械浴



特別養護老人ホーム 1台
(1994年～導入)

見守り支援 (マット系センサーロボット)

眠りSCAN (訪室回数軽減、夜勤負担軽減)



睡眠・覚醒、脈拍、呼吸、臥位・座位、睡眠グラフ
を手元端末でリアルタイム確認

1時間ごとに介護記録ソフトに自動記録

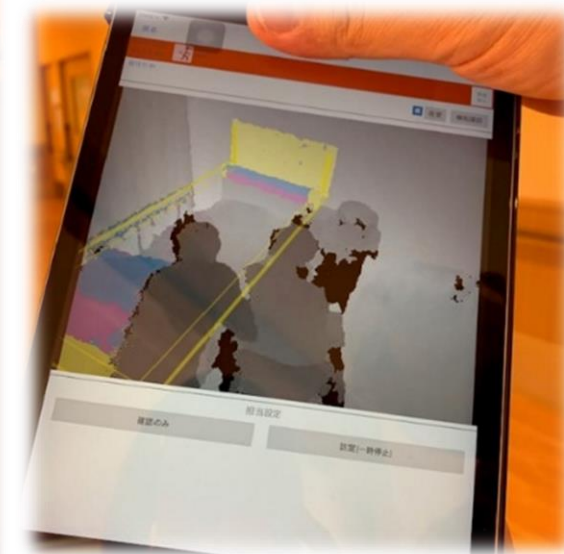
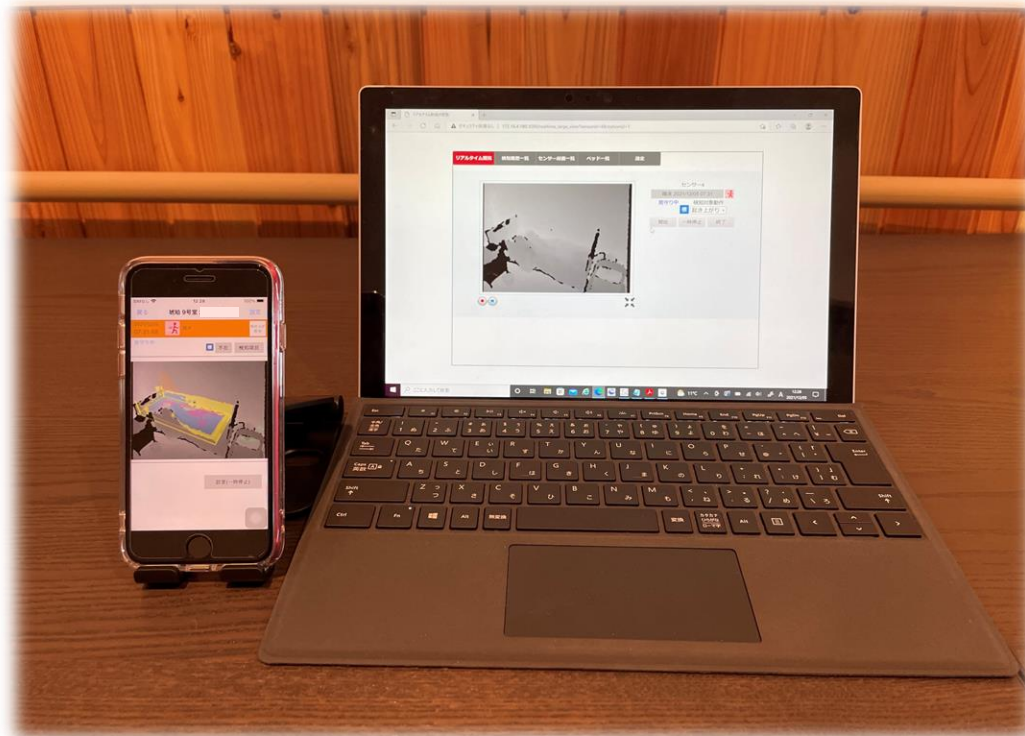
特別養護老人ホーム・ショートステイ 計15台(2018年導入)



見守り支援（カメラ系センサーロボット）

Neos+Care

（シルエット機能付、訪室回数軽減、夜勤負担軽減）

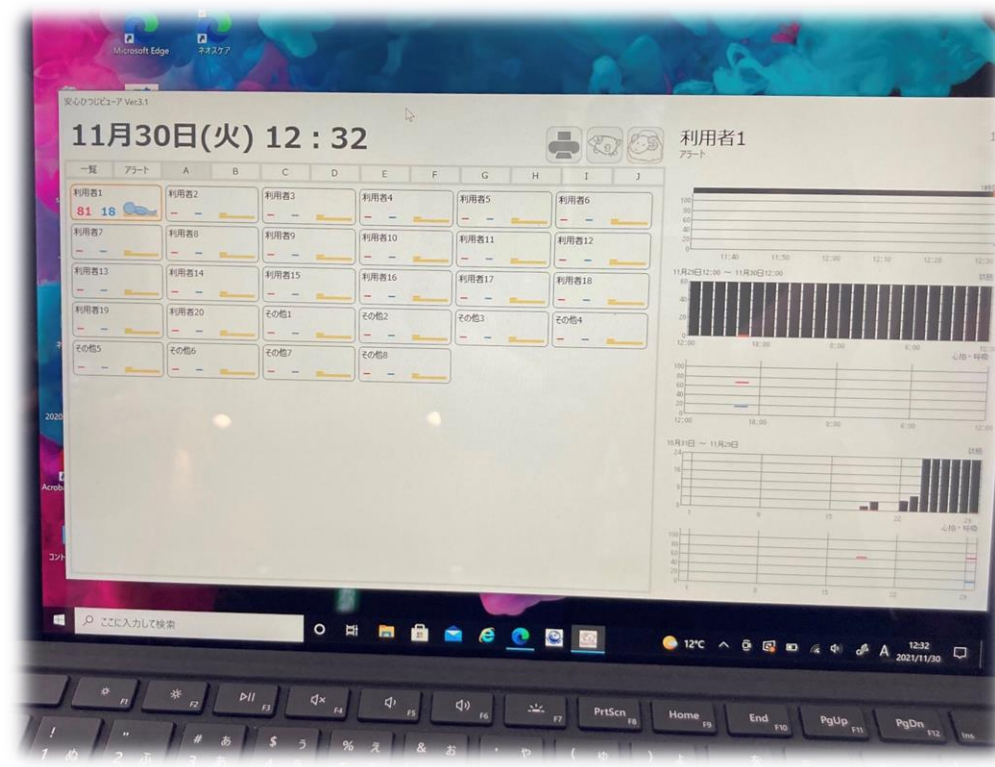


特別養護老人ホーム・ショートステイ・ショートステイ翠風 計40台
(2020年・2021年・2023年導入)

見守り支援（マット系センサーロボット）

安心ひつじα

（ナースコール機能付、訪室回数軽減、夜勤負担軽減）



ショートステイ翠風 28台(2021年導入)



見守り支援・介護業務支援（カメラ系センサーロボット）

HitomeQケアサポート

（訪室回数軽減、夜勤負担軽減、利用者状況把握）



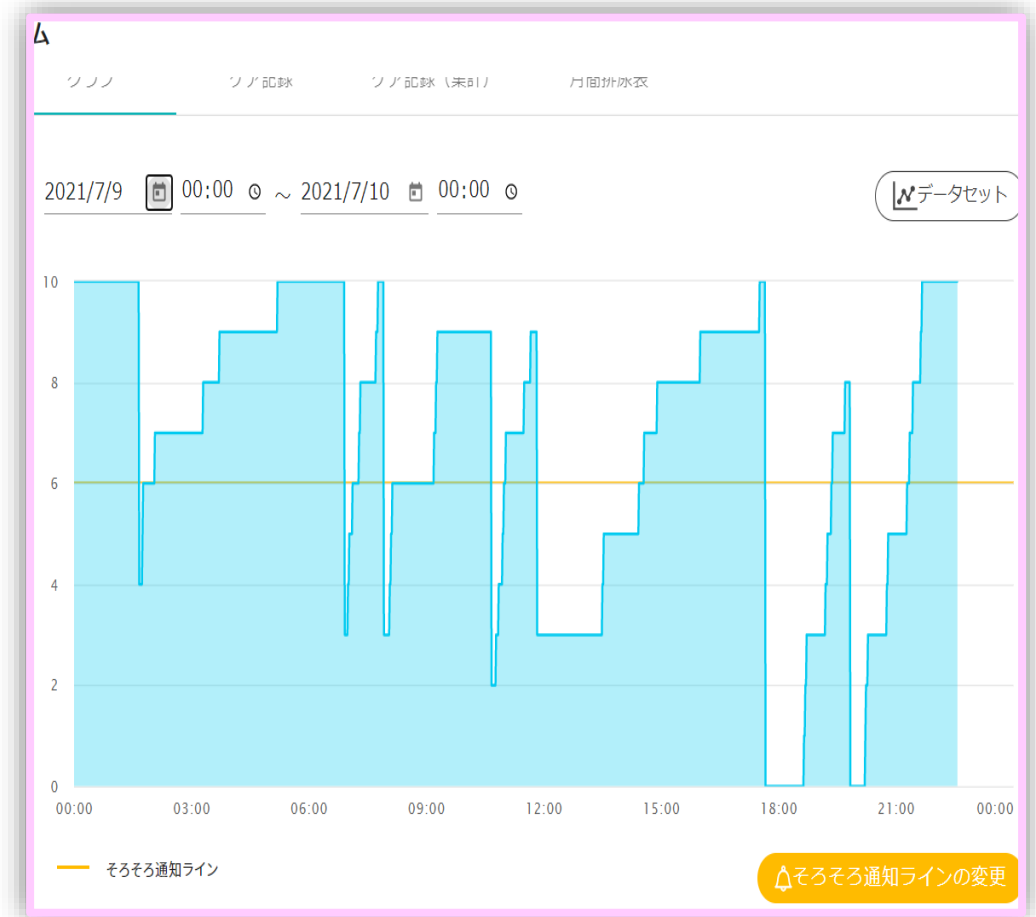
ショートステイ翠風 10台(2021年・2022年使用・2022年導入)



排せつ予測（介護ロボット）

Dfree

(排せつ介助負担軽減)



特別養護老人ホーム・ショートステイ 1台(2020年導入)



コミュニケーション（介護ロボット）

メンタルコミット ロボ
パロ



特別養護老人ホーム 1台(2017年導入)



情報通信技術 (ICT)

BlueOceanNOTE II Wiseman

(介護ソフト・記録業務負担軽減)

厚生労働省「科学的介護情報
システム LIFE(旧CHASE)」
(2020.5～)

全職員がPC・Surfaceで記録



全部署 計29ライセンス(2019年導入)



情報通信技術 (ICT)

デジタル体温計・デジタル血圧計 (記録業務負担軽減)

測定した体温・血圧は
介護ソフトに自動記録



特別養護老人ホーム・ショートステイ 各6台(2020年導入)

情報通信技術 (ICT)

インカム

(情報伝達・情報共有)



職員全員がインカムを装着することで、
情報連携・情報共有だけでなく、職員の精神的な負担も軽減

全部署 計69台(2019年～導入)

情報通信技術 (ICT)

VoiceFun

(アプリ・記録業務負担軽減)



ケアマネジャーの帳票記録は
音声で入力

居宅介護支援 6ライセンス(2018年導入)

AGEphone

(スマートフォン用内外線通話アプリ)



見守り支援機器viewer(2機種)
とのワンデバイス化

ショートステイ翠風 4台(2021年
softphone導入→2022年変更)



情報通信技術 (ICT)

NAS (Network Attached Storage)

モバイルWiFiルーター

(情報共有・事務負担軽減)

各部署の端末からアクセス
外部からの接続可能(VPN)



LINEオープンチャット

(職員への情報伝達・情報共有)

全部署(2018年・2021年・2022年導入)



情報通信技術 (ICT)

X'ion

(アプリ・ICカード労務管理・勤務管理業務負担軽減)

申請、承認はオンライン上で



X'ion

ユーザーID

パスワード

ログイン

全部署 計3台(2020年・2021年導入)



情報通信技術 (ICT)

Nintendo Switch (eスポーツ・アクティビティ)

新しいアクティビティにチャレンジ！
今後、様々なアプリの活用を検討



デイサービスセンター 1台(2022年導入)



テクノロジー活用【レベル1：介護ソフトの活用による介護看護記録・1端末化・自動記録】

② 血圧測定記録



自動記録



自動記録

② 体温測定記録

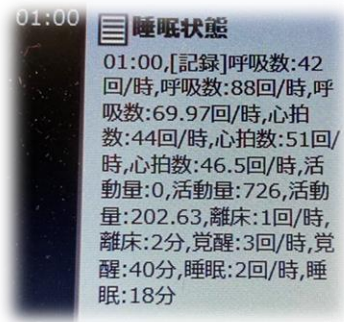
手元端末
確認

① 介護ソフト
「BlueOceanNote II」

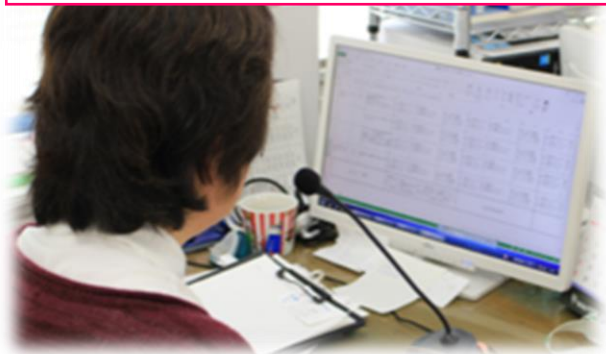


自動記録

② 見守り支援機器
「眠りSCAN」情報



① 介護ソフト「ワイズマン
在宅ケアマネジメント支援システム」



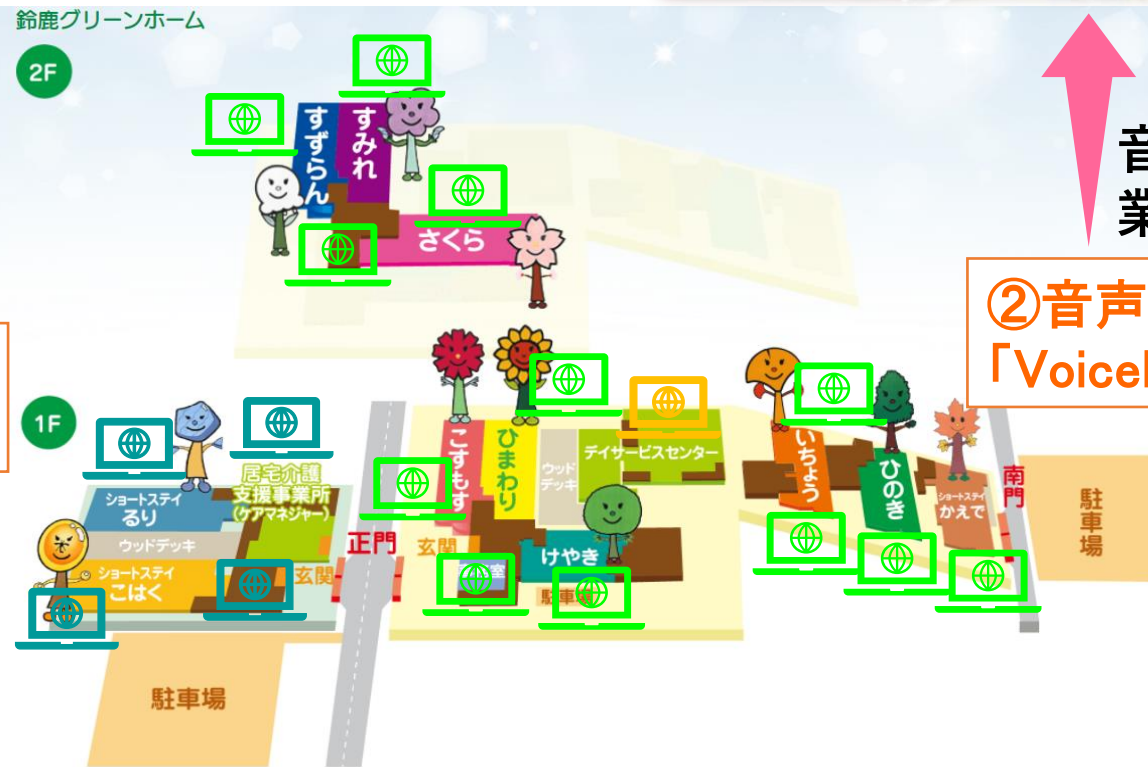
音声による
業務記録

② 音声入力ソフト
「VoiceFun」

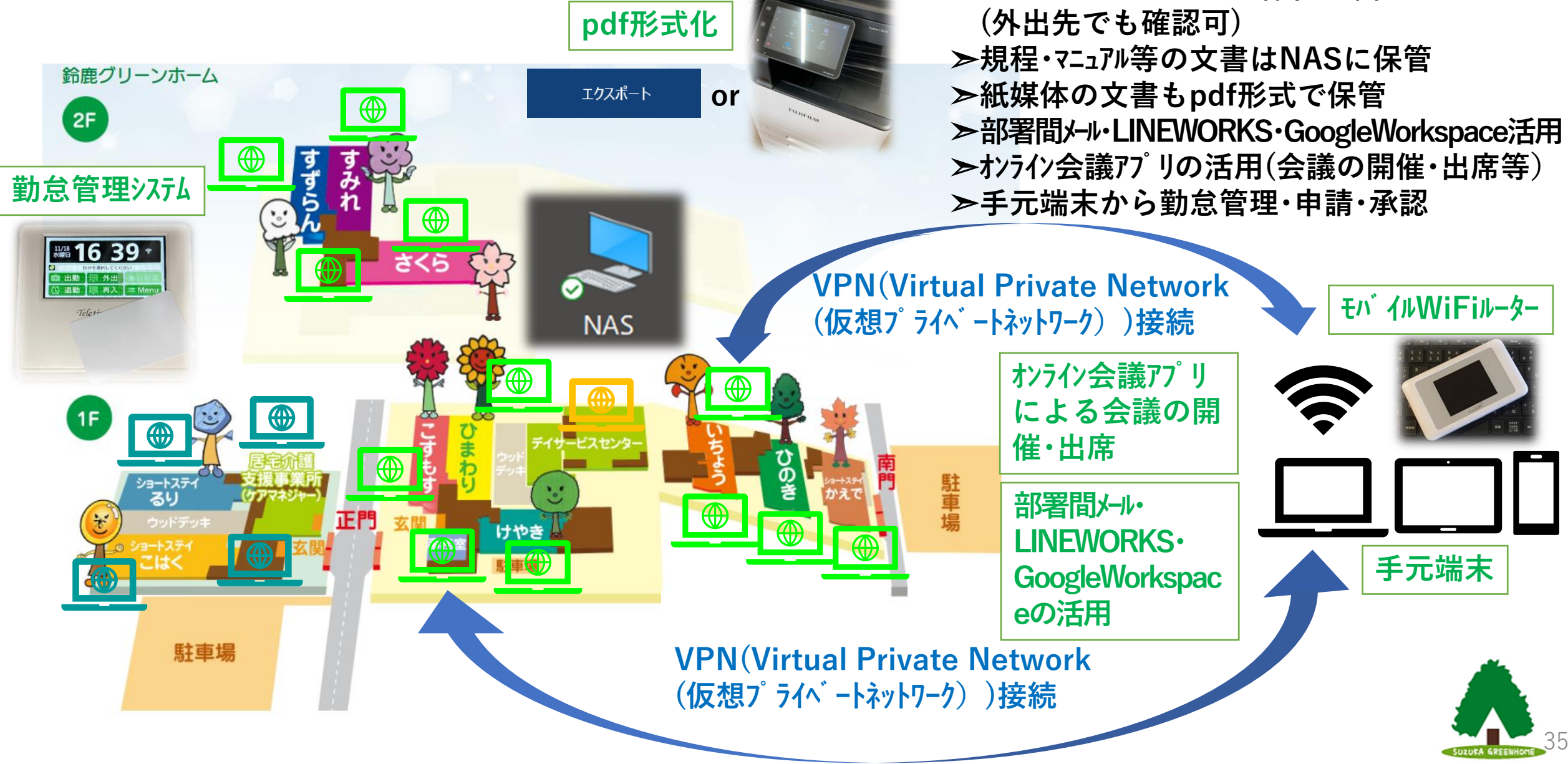
② 見守り支援ソフト
「Neos+Care」情報



② 見守り支援ソフト
「安心ひつじα」情報



テクノロジー活用【レベル1：WiFi・NAS(Network Attached Storage、ネットワークHDD)、Eメール等の活用による情報伝達・情報連携・事務処理】



- NAS内のデータは手元端末で確認 (外出先でも確認可)
- 規程・マニュアル等の文書はNASに保管
- 紙媒体の文書もpdf形式で保管
- 部署間メール・LINEWORKS・GoogleWorkspace活用
- オンライン会議アプリの活用(会議の開催・出席等)
- 手元端末から勤怠管理・申請・承認

テクノロジー活用【レベル3：ICTと介護ロボットの組み合わせ①】

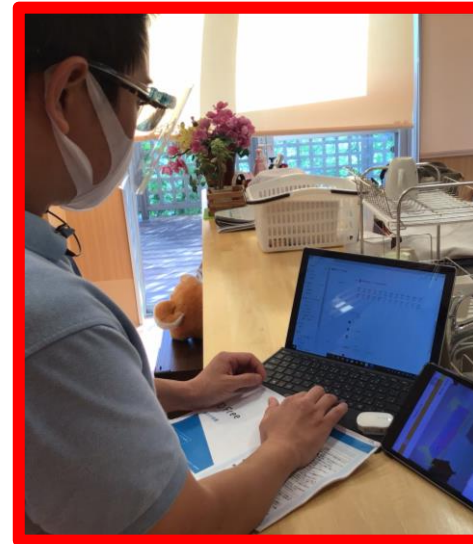
①排せつ予測デバイス「Dfree」
→膀胱内尿量を「viewer」手元端末
で確認

②見守り支援機器眠りSCANの
「viewer」→睡眠・覚醒状況をリアル
タイムで確認

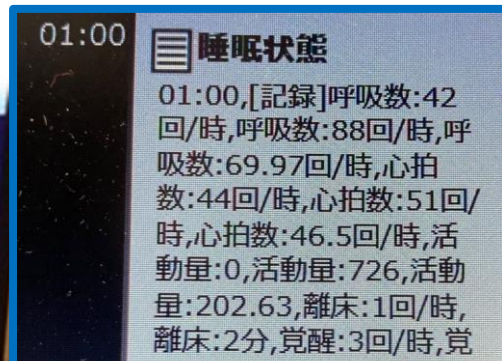
③1時間ごとに呼吸数、心拍数、離
床回数・時間、覚醒回数・睡眠回数・
時間を介護ソフトに自動的に記録

尿量と覚醒状況を確認し、排せつ支援

- 訪室回数の減少
- トイレ誘導時の排せつ率向上



③介護ソフト

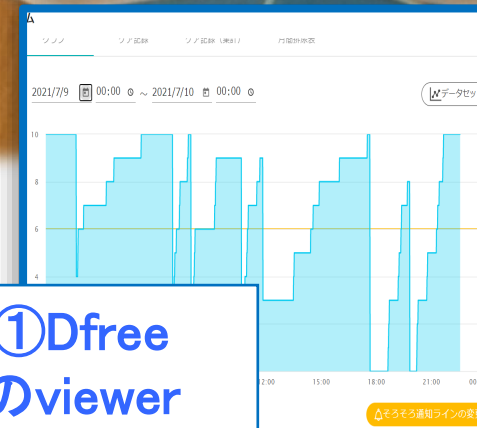


③眠りSCANデータの自動記録

②眠りSCANのviewer

①Dfree

②眠りSCAN



テクノロジー活用【レベル3：ICTと介護ロボットの組み合わせ②】

①安心ひつじ αのviewer

出典:株式会社アイアイ HP

①ナースコール機能付き見守り支援機器 「安心ひつじα」

- ・ナースコール「viewer」を手元端末で確認
- ・呼吸、心拍(離臥床、体動)を「viewer」手元端末で確認



①安心ひつじα



②見守り支援機器「Neos+Care」の 「viewer」→離臥床、体動を手元端末で リアルタイム確認

同時にアラームを手元スマートフォンに通知

②Neos+Care

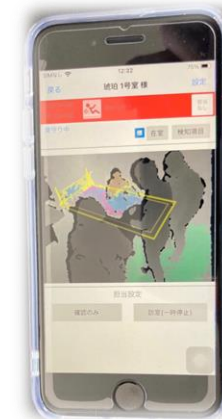
③ナースコール、呼吸数、心拍数、離床回数・時間をサーバーに自動保存

④インカム又はスマートフォン内外線通話アプリ 「AGEphone」による情報連携

→見守り支援にかかる業務負担が
大幅に軽減

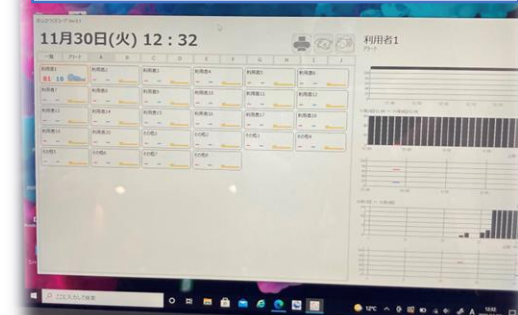


②スマートフォン
(スタッフ携帯)



②Neos+Care
のviewer

②サーバー端末



③クラウドサーバー

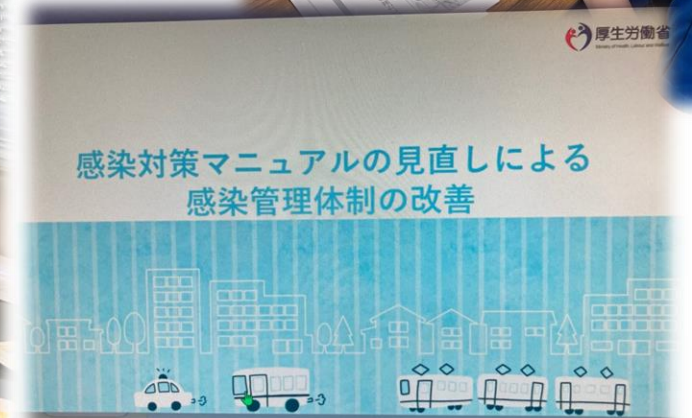
③サーバー

- ・訪室回数の減少
- ・ヒヤリハット事例、事故の発生防止、再発の防止

情報通信技術 (ICT)

Zoomなどのオンラインコミュニケーションアプリ
(会議・研修など)

感染症予防・会場までの
移動時間等の負担を削減



全部署 (2020年導入)



情報通信技術 (ICT)

Zoomなどのオンラインコミュニケーションアプリ
(面会、施設見学、採用面接、音楽会・Web教室など)

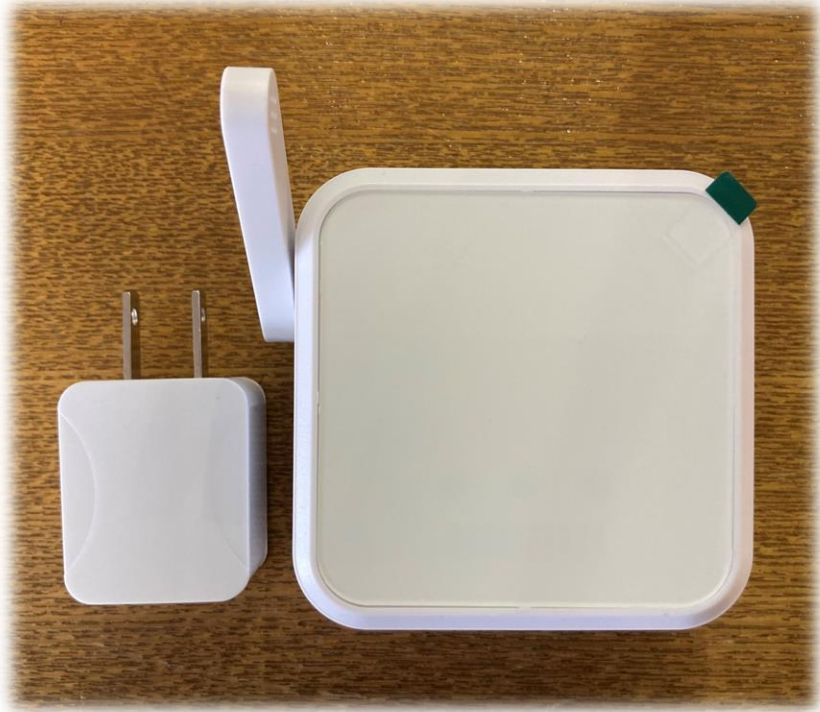


全部署 (2020年導入)



情報通信技術 (ICT)

Airoco (換気状況・CO₂見える化システム)
(ホーム内各所、地域サロンなど)



5台 (2023年導入)



情報通信技術 (ICT)

モフ測 (Moffバンド)

(体力測定用ウェアラブル端末、アプリ)



体カテストの自動測定
体カテスト結果の自動記録、
リアルタイムレポート出力



デイサービスセンター 5本(2020年導入)



情報通信技術 (ICT)

モフトレ(Moffバンド)

(オンライン機能訓練・アクティビティツール、アプリ)



動画による機能訓練
トレーニング結果の自動記録
リアルタイムレポート出力

デイサービスセンター 5本(2021年導入)

情報通信技術 (ICT)

HURスマートタッチ (トレーニングマシン)



負荷と回数の自動設定
トレーニング結果の自動記録
リアルタイムレポート出力



- ・アダクション/アブダクション
- ・チェストプレス
- ・プッシュアップ/プルダウン
- ・アブドメン/バック
- ・レッグプレス

デイサービスセンター 5台(2018年導入)



～その他の機能訓練用機器・器具～

redcord®

リカベン トバ イク

アシストウォーカー (免荷機能付)



デイサービスセンター (2018年導入)



テクノロジー活用【レベル4：デジタルツールの活用による機能訓練・介護予防】



1 (1) Moffバンド「モフトレポート」体カテ
 スト(TUG・CS-30・開眼片脚立位)
 1 (2) 身長・体重・握力測定
 2 「基本チェックリスト」
 (公民館・デイサービスセンターなど)

歩行測定アプリ
 「GaitBest」
 「Majesty」
 導入予定

リアルタイムレポート
 (セラピストからの説明・指導、成果の共有)



IV モフトレ

性別	男性	女性	10-11歳	12-13歳	14-15歳	16-17歳
TUG	10.9秒 (+1.5)	↓	9.4秒	9.7秒	男性 5.9~7.1秒	
歩行片脚立ち位	6.6秒 (+0.1)	↓	6.5秒	4.5秒	男性 6~10秒	
歩行能力評価	C	C	D			
CS-30	13回 (-1)	↓	14回	16回	男性 14~16回	

TUG時間別の秒数	正	大	中	小	最
2020.11	0.8	3.3	1.5	2.6	1.1
2020.10	0.8	2.8	1.5	1.8	1.4
2020.09	0.7	2.6	1.4	2.4	1.4

TUG (Time Up and Go Test) の秒数	6-8	8-10	10-11	11-13	13-15	15-20	20-30
60-70							
50-60							
40-50							
30-40							
20-30							
15-20							
10-15							
5-10							

Moffバンド
 ×
 HUR
 ×
 redcord®
 ×
 Zoom
 ×
 P4S

3 HURスマートタッチ
 (マシントレーニング)

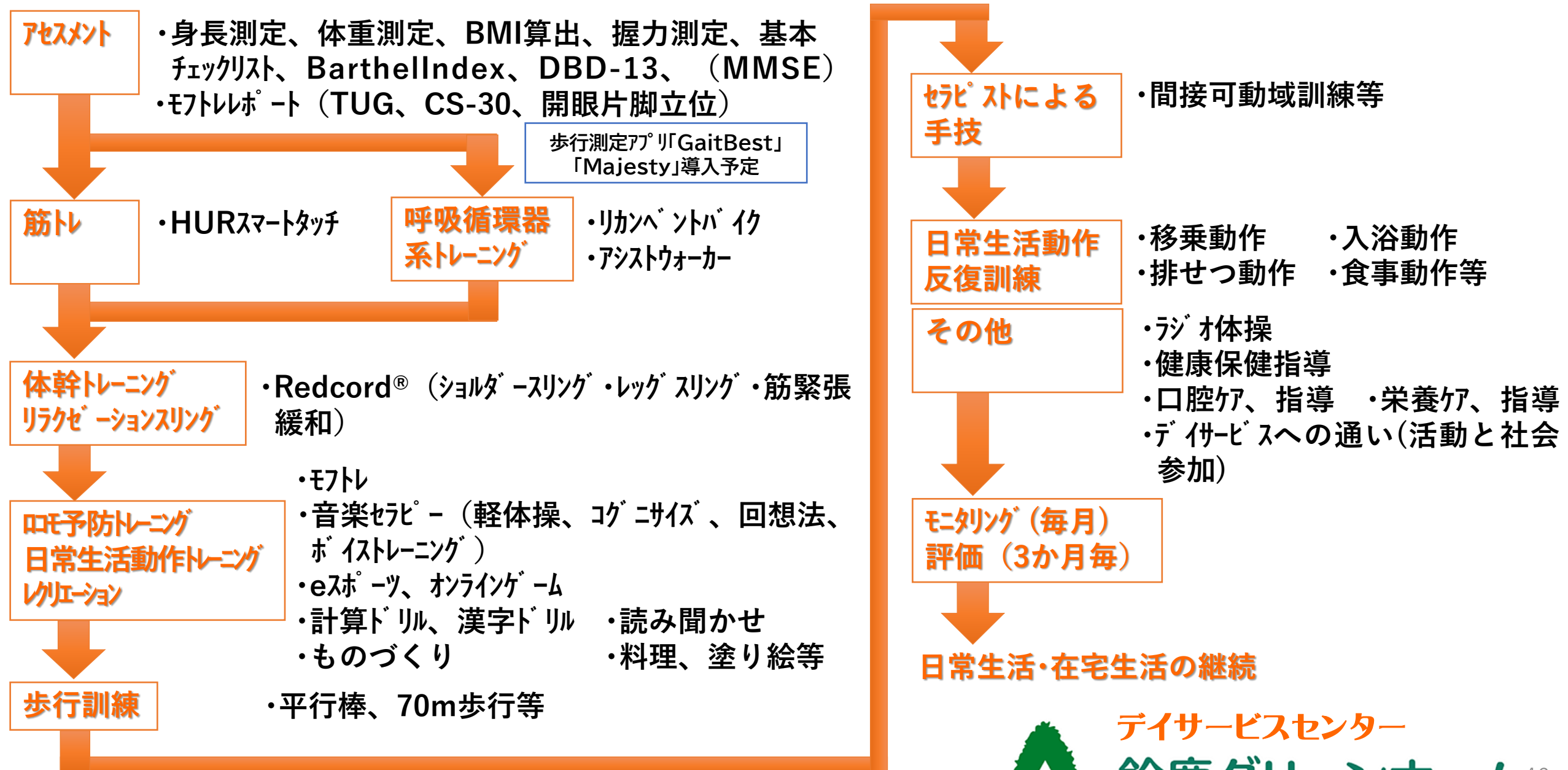
4 redcord®
 (体幹トレーニング)

5 Moffバンド「モフトレ」
 (動画で軽運動)

6 Zoomを用いた音楽レク(同時・複数箇所(公民館・自宅・デイサービスセンター・特養ユニットなど))、
 口腔・栄養・医療・認知症等の
 専門職指導



デイサービスセンター-鈴鹿グリーンホーム 介護予防・重度化防止・健康寿命延伸 スキーム (R5.3)



⑦改善状況把握(A)
フィードバックデータの
活用(ケア展開)、
評価(C)



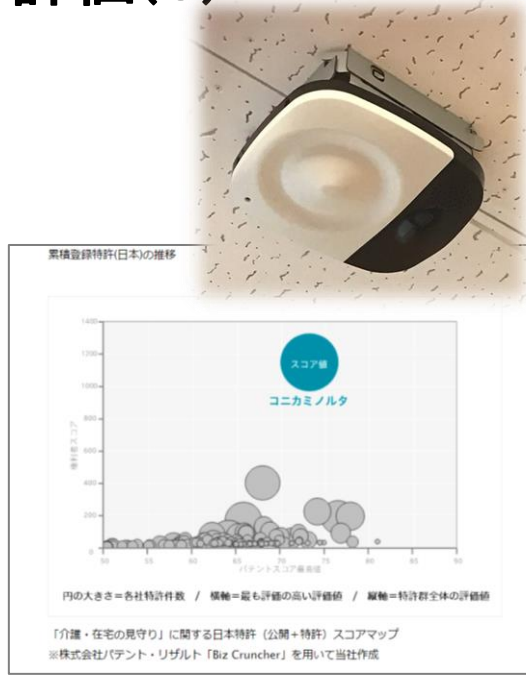
⑧分析

認知症の診断
認知症高齢者の日常生活自立度

①状態把握

日本語版BPSDケアプログラム
DEMBASE
(公益財団法人東京都医学総合研究所)

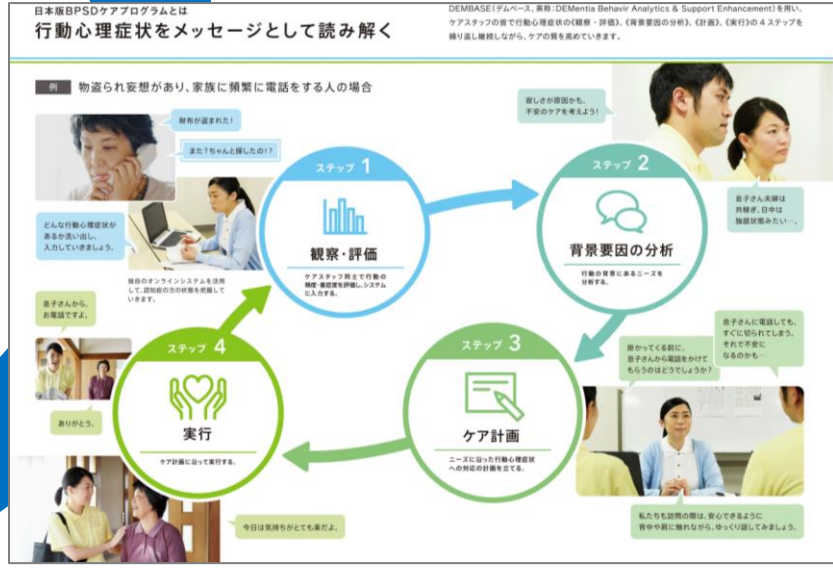
認知症ケア
×
テクノロジー



②観察
⑥状況記録



HitomeQ ケアサポートシステム
(コニカミノルタ株式会社)



出典：DEMBASE a3 180601 kanni ol.pdf (igakuken.or.jp)

②観察・評価→③背景要因の分析
→④ケア計画(P)→⑤実行(D)

【ケアマネジメントサイクルにかかる生産性向上(居宅介護支援)：AIは使用でき次第】**【R4実施予定】**

インテーク

アセスメント

ケアプラン原案作成

サービス等調整

サービス担当者会議

説明・同意・交付

P(計画)

A(改善)

D(実行)

C(評価)

モニタリング

※LIFE

給付管理

➤活用すべきツール

- ・介護ソフト
- ・ラップトップ PC、スマートフォン等のデバイス
- ・音声入力ソフト
- ・アプリ(オンライン会議、情報連携、AI)
- ・WiFi、LAN、NAS

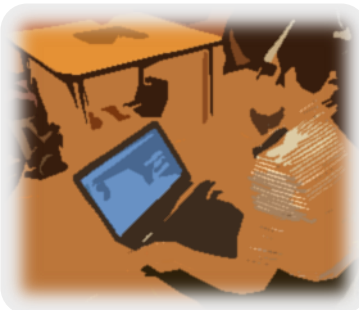
第1表・・・CM
第2表・・・AI
作成
第3表・・・AI
作成

第4表、第5表
・・・音声入力
等活用

第6表、第7表
・・・AI



LIFEフィードバックの活用【レベル3：LIFEシステムと介護ソフトの組み合わせ】【R3.6～】



(1) CHASEフィードバック (試行版)
2020.8サービス提供部分

- ① 1日あたりの時間／回数(離床・座位保持・立ち上がり)【FORM_0600_2021_01】
- ② 排せつの状態に関するスクリーニング・支援計画書 排せつ(日中)の状況【FORM_0600_2021_01&02】
- ③ 自立支援促進に関する評価・支援計画書 支援実績(日々の過ごし方、居場所づくり)【FORM_0700_2021_01】
- ④ 個別機能訓練計画書(機能訓練の長期・短期 目標への活動参加の位置付け数)【FORM_0330_2021_02】
- ⑤ 生活機能チェックシート(ADL)【FORM_0320_2021】
- ⑥ 興味・関心チェックシート(任意)

(6) 24時間シート・各関連計画「P」

(5) 施設サービス計画「P」

(2) 施設サービス計画書「P」

(3) 個別ケアの提供「D」

(4) ① LIFEフィードバック (暫定版) 2021.8サービス提供部分「C」「A」

(4) ② BlueOceanNote II からの自ホームデータ抽出



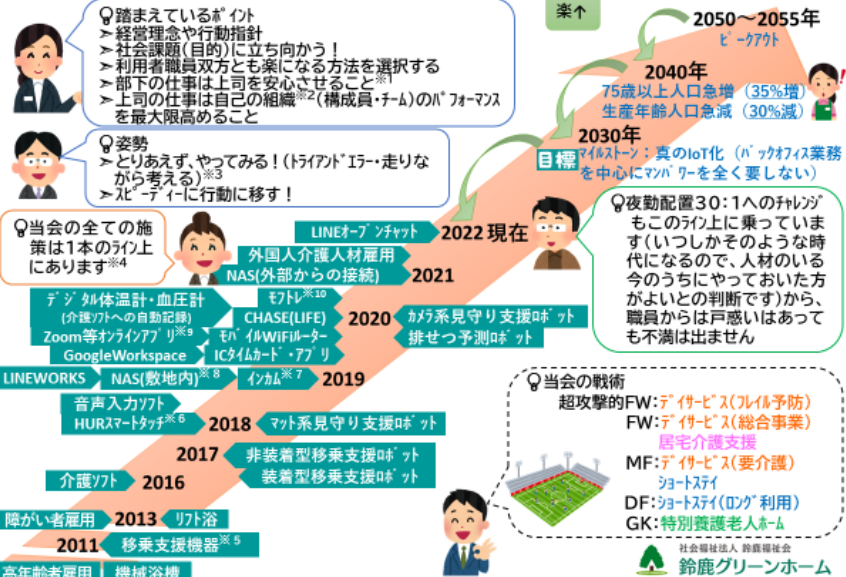
施設サービス計画書のニーズの変化
ケアプラン第2表「生活全般の解決すべき課題(ニーズ)」の比較

当会のテクノロジー利活用ポイント

～各機器を組み合わせる・できる限り活かし切る～

令和5年度取組予定の機器等

当会の方策「介護サービスの質向上と“同時に”スタッフの負担軽減を図る」



龍骨王 歩行測定ツール Kinect [GaitBEST] [Majesty]

3Dカメラの機能を活用した歩行分析が可能
4m歩行で転倒リスクなどを30秒で判断!

①GaitBEST: 将来の転倒リスク予測「転倒リスク(%)」
Majesty : データの一覧化、グラフ化

②モトレチェック: TUGの各動作の2つを組み合わせて、転倒→骨折→入院(デイサービス、利用離脱)の低減、フレイル予防への活用にチャレンジ!

(龍骨王 HUMANLINK 提案資料)

Voxela VCare

転倒、起床、排便などの重大な事故をAIが検知し、即座に介護者に通知します

居室以外、共同生活室等共有スペースの見守り可能性にチャレンジ!

(第12回介護経営サミット資料)

換気見える化サービス

中部電力ミライズ Airoca

換気のタイミングを「勤」定時→「数値」で見える化! その他業務管理等に活用できる可能性も!

(中部電力ミライズ コンテンツ)

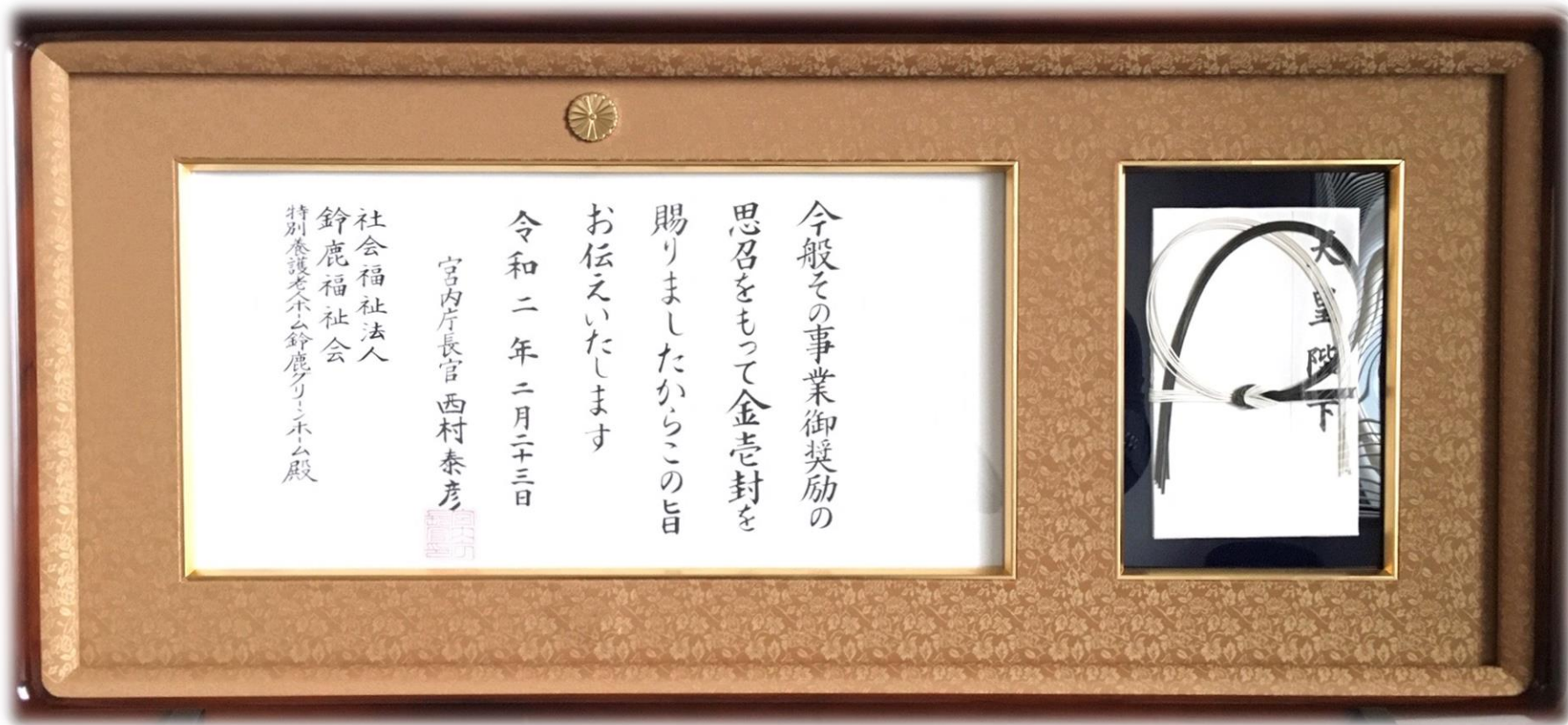
株式会社ブルーオーシャンシステム 予定

手元に蓄積しているLIFE提出データを活用!
◎数か月先のフィードバックを待たずにグラフ化(FB活用が早くなる!)

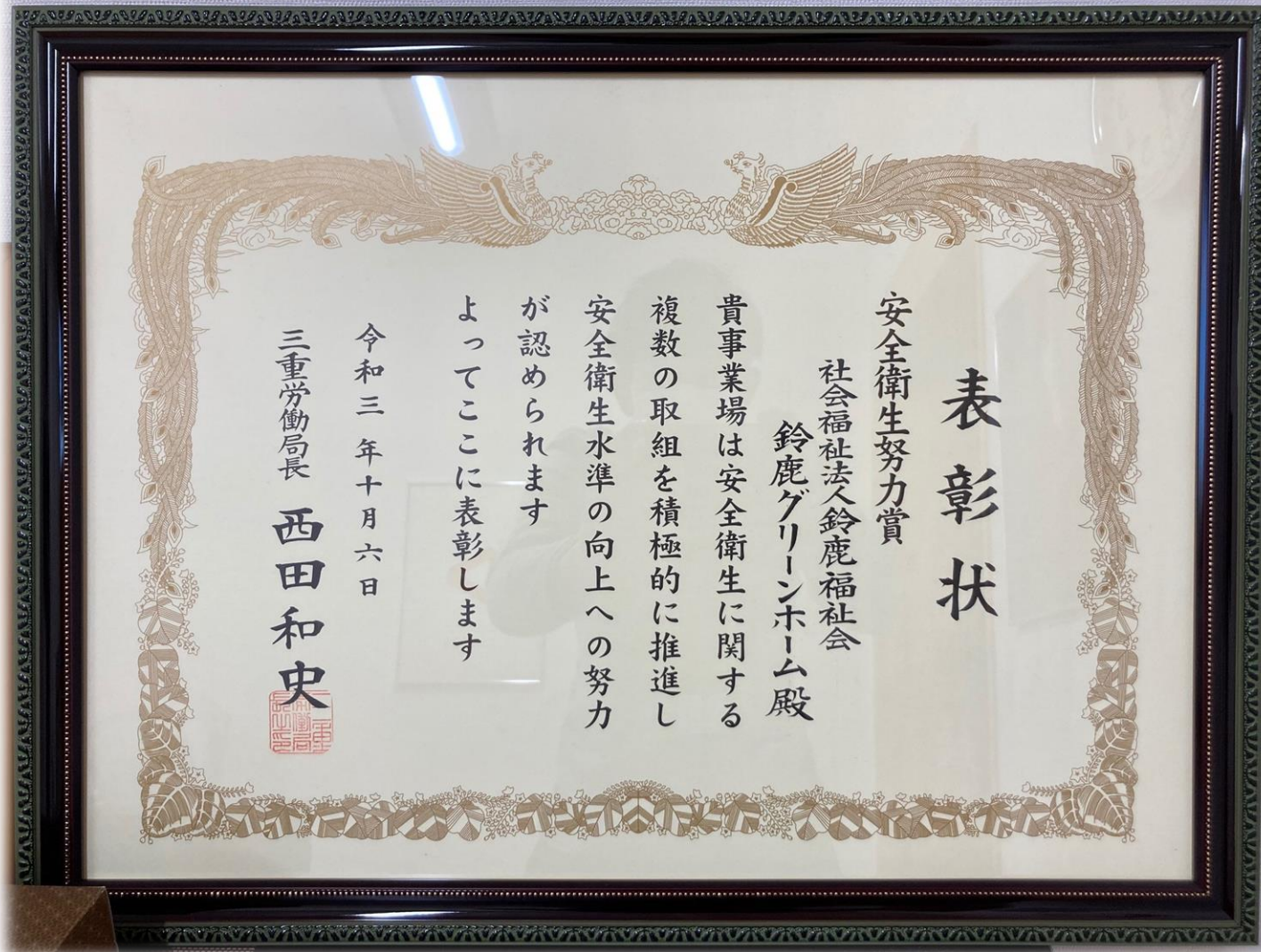
(第12回介護経営サミット資料)

① マット系センサー(眠りSCAN等)	30台
② カメラ系センサー(Neos+Care)	30台
③ AI画像解析システム(Vケア)	9台
④ インカム	2台
⑤ スマートフォン	2台
⑥ 介護ソフト(BlueOceanSystem)及びPC	2台
⑦ 排せつ予測デバイス	1台

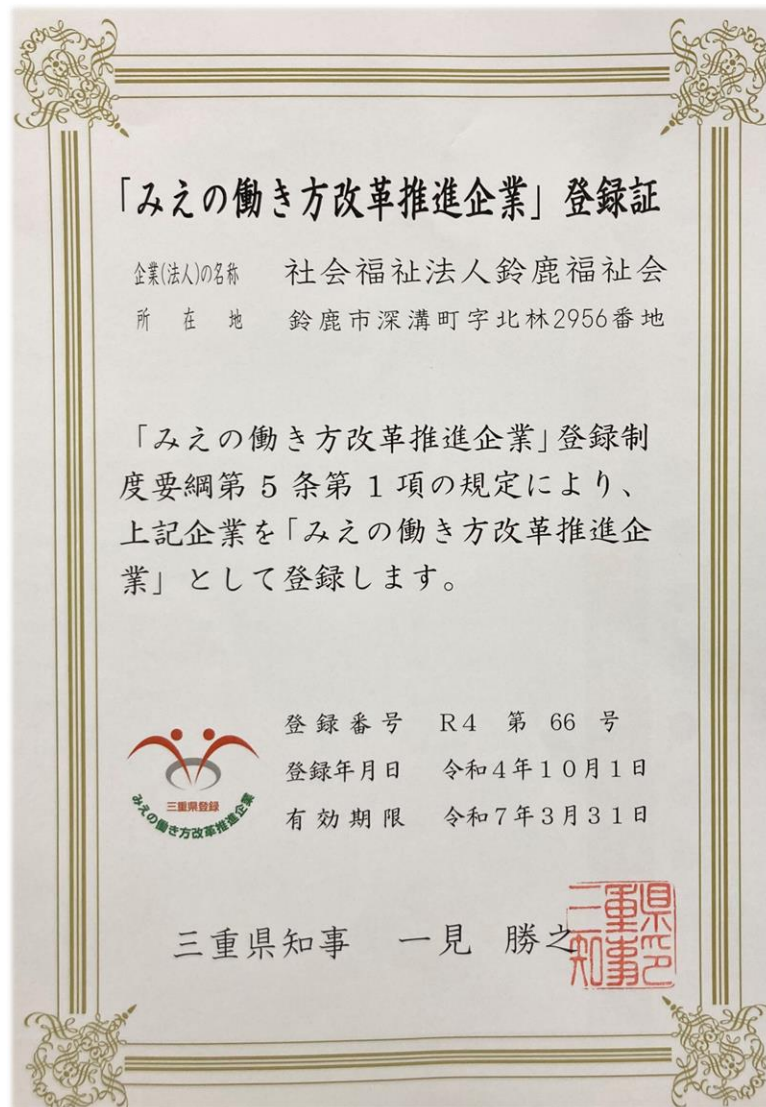
受賞、認証等の取得



2020.2.23 令和になって初の天皇誕生日(2月23日)に際して、
 今上陛下より、優良民間社会福祉事業施設として御下賜金を拝領



2021.10.6 三重労働局長 令和3年度安全衛生に係る優良事業場
「安全衛生努力賞」受賞



2022.10.1 三重県「みえの働き方改革推進企業」登録

社会福祉法人 鈴鹿市深溝 農場社会	059-374-2956	059-374-4600	農場実習	老人福祉、介護事業	162
-------------------	--------------	--------------	------	-----------	-----

出典：三重県ホームページ
三重県 | 障害支援・障害者がいっしょに活躍推進企業ネットワーク登録企業リスト / 最新

2015.11.2 三重県「障がい者雇用推進企業ネットワーク」登録

2022.9.26 農林水産省「野菜サポーター」登録



「野菜を食べてよプロジェクト」野菜サポーターについて

プロジェクトの趣旨に賛同し、野菜の消費拡大に取り組む事業者の存在を募集しています。野菜サポーターは現在、次の237の企業・団体等にご協力・ご賛同いただいております。野菜サポーターによる野菜の消費拡大についての取組は[こちら](#)からご覧いただけます。

野菜サポーターのご紹介（各事業者リンク：外部サイト）

- 社会福祉法人 鈴鹿グリーンホーム
- 浮気調査料金 ドットビズ
- エコスリー
- スリーエゼット
- 社会福祉法人 鈴鹿福祉会 鈴鹿グリーンホーム
- 株式会社ドリーフ運営サイト「エコスリー」
- スリーエゼット

2022.10.14 消費者庁「消費者志向自主宣言」



2022.10.24 厚生労働省「知って肝炎プロジェクト」パートナー企業登録





2020.10.29 更新
2022.10.29 更新

2018.10.29 三重県 みえ働きやすい介護職場取組宣言事業所証明(宣言番号 1)
宣言：「働き方を改善して、仕事と家庭の両立を図る。」

みえ働きやすい介護職場 取組宣言事業所

取組紹介集

2023年3月時点

三重県・社会福祉法人 三重県社会福祉協議会

社会福祉法人 鈴鹿福祉会

法人所在地 〒519-0321 三重県鈴鹿市深溝町字北林2956番地
TEL 059-374-4600
URL <https://suzuka-greenhome.jp/>
取組事業所 特別養護老人ホーム 鈴鹿グリーンホーム (鈴鹿市)
ショートステイ 鈴鹿グリーンホーム・翠風 (鈴鹿市)
デイサービスセンター 鈴鹿グリーンホーム (鈴鹿市) 他1事業所

取組宣言 働き方を改善して、仕事と家庭の両立を図る。

取組 1 コンセプトは「とりあえず、やってみる！」

テクノロジーをフル活用した介護にチャレンジ!

取組 2 コンテンツ「盛りだくさん」のホームページ!

ホームページは大切なメッセージアイテム

①ICT:インカム、介護記録ソフト、オンライン会議・研修・面会、各種アプリ等【科学的介護情報システム(LIFE)のフィードバック活用にも積極的に取り組んでいます】

②ロボット:マット系・カメラ系センサー、排せつ予測、パワースーツ、コミュニケーション10機種

③IoT化:①と②を組み合わせた使用(介護記録ソフトやアプリへの自動記録)

30万を超えるページビューをいただいています。ご覧いただいた方からは、よく、「ここまで公開してもいいの!」と思われることがあります。

盛り①:「グリーンホームだより」1日3記事超のペースで記事を投稿しています。ぜひ一度ご覧ください。

盛り②:「情報公開」盛り③:「ワークライフバランス (WLB)」

職員の声

鈴鹿グリーンホーム
アワフルー コンパニオン

外部からのご依頼・取材等 (2021年以降・主なもの)

Symposium



どうする？ LIFE対応 科学的介護への対応を 変革の契機としよう

科学的介護情報システム(LIFE)活用の推進が決まった今報酬改定。しかし、その活用方法はまだ見えてこない。そこで、データ収集システム「CHASE」に取り組んだ鈴鹿グリーンホームの原田崇史氏とグリーンコート三愛の菊地芳一氏、ICT化で業界を牽引するエムダブルエス日高の北嶋史貴氏、そして、介護とITを同時に考える会社、ビーブリッドの竹下康平氏の4氏にLIFEの現状と今後を語ってもらった。

まずインストーラーで
困難に直面

原田●原田さんは先にCHASEを利用されていますが、現時点(2月)での感想を教えてください。

原田●昨年5月1日にCHASEに関する通知のハガキが届き「今後、加算項目になっていくから先んじてやろう」と進めてきました。端的な感想として、まず、インストーラーの段階から初めてのことで、不慣れなわけですが、ヘルプデスクがメールしかなく、しかも、問い合わせも返事がなかなか返ってこない。これには本当に困りました。

基本的には、比較的時間に余裕がある夜勤のスタッフに入力をしてもらうように段取りをしてきました。夏以降はスタッフ総出で情報を集め、なんとかファイードバックまで漕ぎ着けた状況です。菊地●またま北海道老人保健施設協議会から、株式会社レソナのiMEDICを使い、薬を二次元コードで読む実証実験の依頼があり、薬剤情報だけの入力という

かたちで、CHASEを導入しました。原田さんのおっしゃる通り、IE(インターネット)エクステンションでしか動かないため、インストーラーの時点で苦労しました。

私たちは介護ソフトにNDソフトウェア株式会社の「ほのぼの」を使っていますが、CHASEへのCSVファイルの出力エラーが頻出し、データ連携がうまくいきませんでした。また、医師や看護師がCHASEへの出力に対応していない部分に薬剤情報を入力していたという事態も発生し、CHASEとの連携がまったく取れず、後から私がすべて手打ちで薬剤情報をCHASEの画面上で入力することに……。当初は10名ほどのサンプルで進める予定でしたが、これでは難しいということで、結局、4名のみになりました。「使い勝手が良いな」というのが正直な印象です。

システム制作側として、竹下さんの見解を教えてください。竹下●今回のLIFEのデータベースは、基本的に介護ソフトにあるデータを正として取り込む

福祉みえ
ふくしの職場
取り組み宣言

2020 February No.347

「働き方改革」として長時間労働の是正や多様な働き方が求められる中、三重県内の福祉の現場においても、働きやすい職場環境づくりに向けて人材育成や環境改善など様々な取り組みがなされています。本連載では、そのような取り組みを行っている福祉施設(法人)を紹介します。

第5回 社会福祉法人 鈴鹿福祉会

取り組み宣言 働き方を改善して、仕事と家庭の両立を図る。

社会福祉法人 鈴鹿福祉会では、ICTやロボットの導入によりスタッフの負担軽減、サービスの向上を実現させています。今回は、常務理事 五十部 綾子さん、同法人施設長 服部 昭博さんにお話を伺いました。

きっかけ

我が法人の新しいことに取り組む職員士を大切にすることを、利用者の増加、介護人材の減少という課題に対応すべく、まずは介護ロボット「HAL(ハル)」を導入しました。平成28年2月からデモを行い、翌年本格的に導入しました。

ICT・ロボット導入の取り組みについて

ロボットは現在5機種を使用しており、各ユニットに分けて導入しています。使ってほしいという声が多かったため、まずは、メーカーに伝えて改善につなげています。

ロボット導入時期の導入したICTは事務作業の効率化を実現させました。タブレットを用いた介護記録やリストバンドの管理によるトレーニングデータの改善等は記録時間を大幅に短縮できています。

導入後の変化

新しいことへの取り組みが職員モチベーションの向上につながっていると思います。

また、平成31年7月からの導入したインカム(無線電話)は仕事を効率化させるだけでなく職員に安心感を与える効果も出ています。

今後について

ICTの部分ではサポートや復た介護記録を自動記録できるようなことを目指しています。そのため、ICTアドバイザーが活躍してまいります。基礎は徐々に進めていきます。



法人名 社会福祉法人 鈴鹿福祉会
本部住所 〒519-0321 鈴鹿市深溝町 2956 番地
ホームページ <https://suzuka-greenhome.jp/>



2021.3 レバレッジズ株式会社 Webサイト 「きらケア研究所」掲載



2021年3月10日 インタビュー

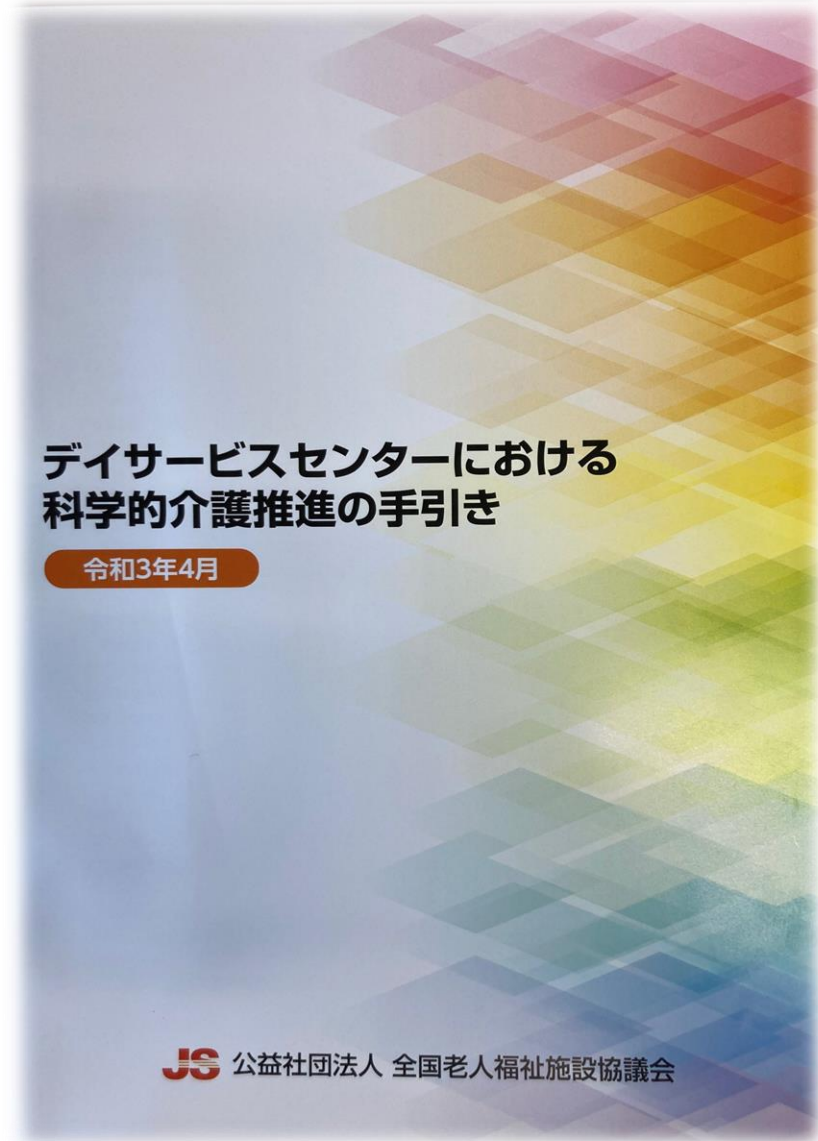
ICT/IoT 定着

介護ロボット・ICTの連携で次世代の介護を実現した方法とは？ -社会福祉法人鈴鹿福祉会 特別養護老人ホーム鈴鹿グリーンホーム-

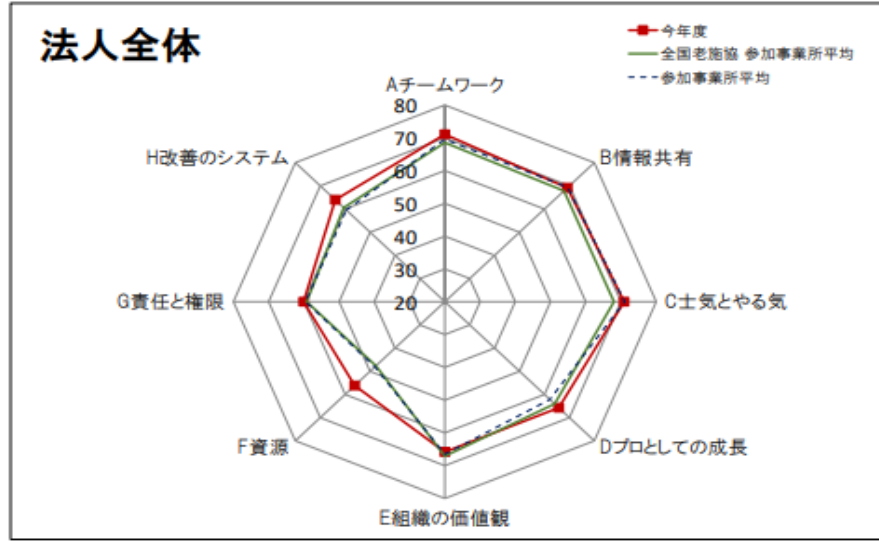


介護ロボットは使いこなせば便利ですが、「何から導入したらいいかわからない」「どのように活用したらいいのかな」と悩む事業所も多いのではないのでしょうか。鈴鹿グリーンホームでは、複数のロボットを活用した新しい介護のあり方を追求。従来のやり方にとらわれず、柔軟な発想で挑戦を続けています。活用方法のてまふ余のプランなどを施設長の服部様と生活相談員の栗田様にお伺いしました。

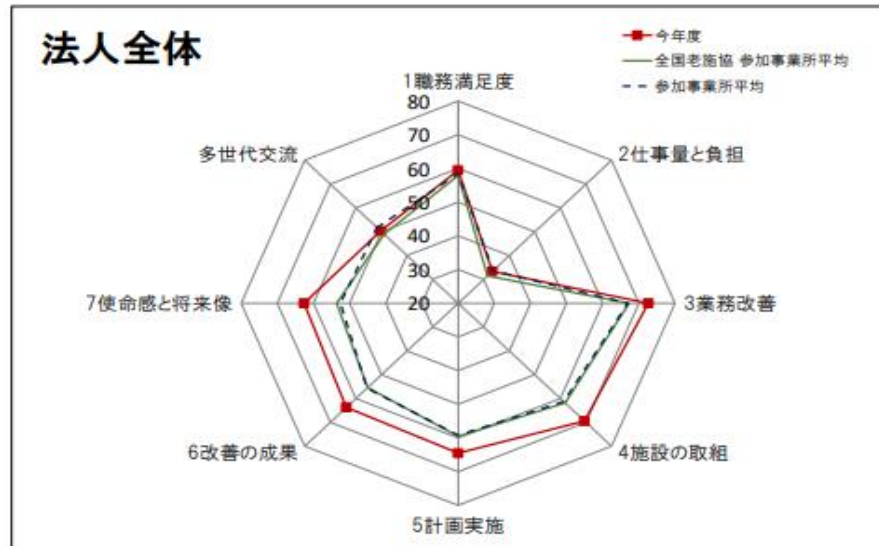
2021.4 公益社団法人全国老人福祉施設協議会 「デイサービスセンターにおける科学的介護推進の手引き」作成WT参画



2021.3 京都大学大学院医学研究科医療科学分野 「介護事業所組織文化に関する調査」協力



©京都大学 大学院医学研究科 医療経済学分野 & 日本医療経営機構



©京都大学 大学院医学研究科 医療経済学分野 & 日本医療経営機構

2021.6 高齢者住宅新聞社 「高齢者住宅新聞」連載コラム「LIFE活用による介護DX推進」に当ホームスタッフ画像が掲載

第2回 システム導入における苦労と喜び

LIFE活用による介護DX推進

株式会社 ブルーオーシャンシステム 営業部 営業課 課長 沖本 崇 (おきもと たかし)

今回は記録システム導入から本稼働までの苦労話を伝えたい。背景、導入当初が肝心で三日に介護業界全体として「パソコンが苦手」「手書きに慣れている」等の現場の意見が多く、推進す

今回の記録システム導入の責任は重大です。導入当初が肝心で三日に介護業界全体として「パソコンが苦手」「手書きに慣れている」等の現場の意見が多く、推進す

入から本稼働までの苦労話を伝えたい。背景、導入当初が肝心で三日に介護業界全体として「パソコンが苦手」「手書きに慣れている」等の現場の意見が多く、推進す

入から本稼働までの苦労話を伝えたい。背景、導入当初が肝心で三日に介護業界全体として「パソコンが苦手」「手書きに慣れている」等の現場の意見が多く、推進す

入から本稼働までの苦労話を伝えたい。背景、導入当初が肝心で三日に介護業界全体として「パソコンが苦手」「手書きに慣れている」等の現場の意見が多く、推進す

奮闘するプロジェクトリーダーたち

振り返ってみると、手書き運用時点での課題であった属人的なノウハウの継承「情報集約の遅延」「膨大な記録転記作業」から解放され、介護記録から読み取る判断が自然と身につく効果が出て、多職種間でもシステム活用を前提とした運用ノウハウが形成されます。

一方で、LIFEの取り組みは国が開始した介護DX推進とも言えます。法人が推進している介護DXと一体的に取り組む相乗効果を得ることが理想ですが、4月提出分作成に当たり膨大な入力作業に追われ、システム運用が重複したように感じる現状を危惧する声も多くなっています。国と法人が進める介護DXの方向性を業務の中で一致させ、奮闘するプロジェクトリーダーとスタッフの知識と力に交換できるような柔軟に推進することが成果を得るための方策になりそうです。

今回は現場で推進された取り組みが法人全体の成果となった事例を紹介いたします。

現場の意見を中心にICTが推進した。特別養護老人ホーム「鈴鹿グリーンホーム」

2021.7 厚生労働省「BPSDの軽減を目的とした認知症ケアモデルの普及促進に関する調査研究」選定(公募窓口:全国老施協、推薦:三重老施協、実施主体:認知症介護研究・研修東京センター)

東京都の取組 > 認知症ケアプログラム推進事業

> 「日本版BPSDケアプログラム」アドミニストレーター研修

「日本版BPSDケアプログラム」アドミニストレーター研修

「日本版BPSDケアプログラム」アドミニストレーター研修

東京都では、公益財団法人東京都医学総合研究所と協働して開発した、認知症の行動・心理症状(BPSD)の改善が期待される「日本版BPSDケアプログラム」(以下「ケアプログラム」という。)の普及により、認知症ケアの質の向上に取り組んでいます。

このケアプログラムは、介護サービス事業所や地域において、認知症ケア質の向上のための取組を推進する人材を養成するとともに、BPSDの症状を「見える化」するオンラインシステムを活用し、ケアに関わる担当者の情報共有や一貫したケアの提供をサポートするものです。アドミニストレーター研修は、介護サービス事業所等において、オンラインシステムを活用したケアを実践する「アドミニストレーター」を養成する研修です。

※ 日本版BPSDケアプログラムについてはこちらを御覧ください。

目的

介護サービス事業所等の職員が、ケアプログラムを実践するための「アドミニストレーター」として、必要な知識及び技術を習得する。

日時・定員等

- 形式
eラーニング研修(標準所要時間4時間)
- 開講期間
令和3年11月15日(月曜日)から令和3年12月17日(金曜日)
- 定員
10名程度
※申込み多数の場合は、地域のバランス等を考慮の上、受講者を決定します。

出典: 「日本版BPSDケアプログラム」アドミニストレーター研修 | 東京都の認知症ポータルサイトとうきょう認知症ナビ(tokyo.lg.jp)

2021.9 日刊木材新聞 「ウッドショック下における木材の連携調達」掲載 (10月、同様の記事が読売新聞オンラインに掲載)

木材新聞

第3種郵便物認可

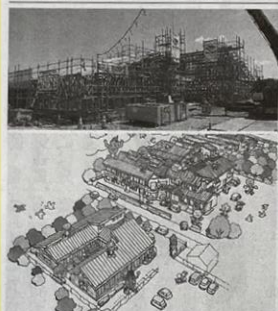
(6)

非住宅木造の木材調達担う

社外連携でオール国産材を実現

松阪木材(三重県松阪市、久保寛社長)は、社会福祉法人鈴鹿福祉会(同鈴鹿市、中村敏理社長)が年内竣工を予定する木造の短期入所者施設「ショートステイ鈴鹿グリーンホーム翠風(仮称)」(鈴鹿市)の木材調達を担った。ウッドショックのなか、当初使用が予定されていた輸入材を国産のカラ松ほか切り替えて、構造材をオール国産材で提案。林野庁の補助金事業も視野に入れ計画を進めた。

年初の見積もり段階を持ち、木材調達で豊から、横架材(梁・富なノウハワを持つ松桁)となるRウッド集 松阪木材に相談があった。間柱や筋違となるWウッドの調達が見通せず、施工を手掛ける丸亀産業(松阪市、竹上景太社長)から地域内外にネットワーク



上(建設工事が進む「ショートステイ鈴鹿グリーンホーム翠風(仮称)」)、下(完成予想図・左下)

松阪木材

ツ集材のラミナ調達を、日本製紙木材(東京都、羽山邦彦社長)に依頼。これを、けせんプレカット事業協同組合(岩手県気仙郡、泉田十太郎代表理事)が約100立方分の集材材に加工した。また、大断面を含む約1立方分は協同組合東海ひのきの家(岐阜県中津川市、中島紀子代表理事)に依頼した。十合・間柱等のムク構造材は、田中林業(松阪市、田中善彦社長)に依頼し、グリーンウッドタックミ協同組合(浦田代表理事)で約60立方分の製品を製材した。建設が進む深溝グリーンホームVIは、木造

平屋建てで建築面積約1100平方メートル、設計はnobブランニング一級建築士事務所(三重県鈴鹿市、岡村信之社長)が担った。松阪木材は、同社や丸亀産業と木材の調達やスケジューリングに関する情報を共有。JAS構造材利用拡大事業の補助金を活用するために、は非常に厳しいタイムスケジュールだった。が、構造材や羽根材の大半をJAS製品で調達し申請に間に合わせた。

松阪木材ウッドピア21事業部営業課長で、三重県木材協同組合連合会が要めるサプライチェーンマネジメントの木材コーディネーターも務める中野貴文氏は「川中に立つ松阪木材がハブとなり、県産材活用を意欲的な岡村社長、地元をセレクトした丸亀産業、日本製紙木材やけせんプレカット事業協同組合、プレカットを担った三重県木造住宅協同組合といった川上や川下との直接連携がうまく機能し、非住宅木造物件の国産材対応を実現した。ウッドショックの渦中だった、通常業務に影響のないよう材料調達は「我々が保有している在庫と別枠で進めた」。

「第5回あいさつ」の表彰の募集開始 愛知県

関係する企業がチームで木材調達、供給に取り組んだ今回のケースは、非住宅木造物件に国産材を供給する一つのモデルケースとして「得た」と話している。

各地域で想定される風速の大きさに応じた小屋組接合の強化が求められている。耐風性向上に向けた小屋組の接合金物のほか、各地域の基準風速などに応じた接合金物、工場のク金物の承認工場などについて同センターの担当者が解説した。な



2021.9

令和3年度東海北陸ブロック老人福祉施設大会(みえオンライン大会)研究事例発表(6年連続)



生産性向上と負担軽減への取り組み
～ICT等を活用し、ケアの向上を目指す～

令和3年度東海北陸ブロック老人福祉施設研究大会(三重オンライン大会)
令和3年9月13日(月)～18日(土)

社会福祉法人 鈴鹿福祉会
特別養護老人ホーム鈴鹿グリーンホーム
サブユニットリーダー

00:00 / 13:51

2021.9 伊勢新聞

「令和3年度東海北陸ブロック老人福祉施設大会の受講の様様」掲載



2021年9月22日 (水) 伊勢新聞

社会 政治 経済 スポーツ 地域 コラム 特集・連載 天気

伊勢新聞 > 北勢 > 鈴鹿 介護職員ら先進事例学ぶ 老人福祉施設研究大会 三重

鈴鹿 介護職員ら先進事例学ぶ 老人福祉施設研究大会 三重

◎ 2021-09-15 ㊟ 北勢, 地域

伊勢新聞社のSNS

Twitter Facebook YouTube LINE Instagram



【動画を視聴する介護職員ら＝鈴鹿市深溝町の鈴鹿グリーンホームで】

【鈴鹿】三重のほか富山、石川、名古屋市など6県1市による「東海北陸ブロック老人福祉施設研究大会 三重オンライン大会」（同施設協議会など主催）が、このほど始まった。同ブロック内の介護福祉事業所370施設が参加し、「最期の一瞬まで、自分らしく生きられる社会へ」をテーマに、介護職員らが動画を視聴し、先進事例などを学ぶ。30日まで。

同研究大会は職員の資質向上を目的に、毎年各県の持ち回りで実施。昨年は四日市市で開催予定だったが新型コロナウイルス感染症の影響で延期となり、今年は初のオンライン開催となった。



2021.9 中日新聞

「コロナ禍で窓越しの面会」掲載

トップ 新着 動画 写真 ランキング 今日のニュース スポーツ速報

【新型コロナ特集】最新感染状況と関連ニュース

ニュース > 地域 > 「愛してる」 鈴鹿の特養、コロナ禍で窓越しの面会

「愛してる」 鈴鹿の特養、コロナ禍で窓越しの面会

2021/09/21 05:00

中日新聞

長期化するコロナ禍で直接の対面が難しい中、鈴鹿市深溝町の特別養護老人ホーム（特養）「鈴鹿グリーンホーム」ではオンラインや窓越しの面会を続けている。敬老の日の二十日には、四日市市和無田町の坂本紀生さん（78）が花かごを手に、長女（46）と、七月から入所する妻京子さん（87）に会いに来た。



窓越しに面会する坂本紀生さん（右端）と妻京子さん（左端）＝鈴鹿市深溝町の鈴鹿グリーンホームで

(中日新聞Web)

最初はタブレット端末でオンラインの対面を試みた坂本さん。ただ、京子さんが認知症を患っていることもあり、会話が続かなかった。だが、その後、窓越しに京子さんと顔を会わせると、その表情が一変。車いすから、笑顔で二人の顔を見上げた。

坂本さんが「元気ですか」と聞くと「元気ですよー」と応じた京子さん。別れ際に「愛してるよ」と伝えた坂本さんに、得意な英語で「I love you」とつぶやいた。

対面後、坂本さんは「寂しいが、元気そうで安心。コロナが収束したら一晩くらい家に連れて帰りたい」と話した。

施設では昨年五月からオンラインと窓越しでの面会を実施。窓越しでの面会のニーズが高いといい、施設長の服部昭博さん（49）は「感染状況の濃淡を見極めながら、リアルとオンラインの使い分けをしていく必要がある」と話した。（須江政仁）

敬老の日 認知症 感染 特別養護老人ホーム・介護老人保健施設

2021.10 三重県福祉人材センター

「みえ働きやすい介護職場取り組み宣言」事業所にかかる動画撮影



2021.11 奈良県老人福祉施設協議会「LIFEに関する県研修会」講師

奈良県老人福祉施設協議会様
令和3年度テーマ別研修会 (YouTube動画配信研修)

「LIFEについて -その将来像-」



私たちは、地域に信頼されるべき存在であり続けます



社会福祉法人 鈴鹿福祉会 鈴鹿グリーンホーム
【公式サイト】(suzuka-greenhome.jp)

社会福祉法人 鈴鹿福祉会
特別養護老人ホーム 鈴鹿グリーンホーム
理事・施設長 服部 昭博
Email:suzugu@mecha.ne.jp





2021.11.15 シルバー産業新聞社 「LIFEフィードバック 暫定版から施設の状況を読み解く」掲載

トップページ お役立ちコンテンツ 新聞の申込 書籍案内

ニュース | 2021/11/15

LIFEフィードバック 暫定版から施設の状況を読み解く

2021年 シルバー産業新聞



科学的介護を目指し、2021年度介護報酬改定では、利用者の身体状況と提供したケア内容等を国へ提出する科学的介護情報システム「LIFE」がスタートした。6月と8月、10月にはフィードバックが行われたが、内容は情報を提供した事業所の状況と、各項目の全国割合と該当者数を確認することのできる「暫定版」にとどまる。暫定版フィードバックを活用して、科学的介護に取り組む特養「鈴鹿グリーンホーム」にデータ分析方法などについて話を聞いた。

現場の分析力を高めて、今後のケアに繋げる

社会福祉法人鈴鹿福祉会（中村敏理事長）が運営する特養「鈴鹿グリーンホーム」（三重県鈴鹿市、服部昭博施設長）では、今年4月よりLIFEへの情報提供を行っている。

現在、LIFEのフィードバックでは利用者の身体状況などを全国平均と比較したデータのみ返されている。同施設では暫定版フィードバックから効果があるケアを読み取り、ケア内容に反映している。

暫定版フィードバックの分析

トップページ お役立ちコンテンツ 新聞の申込 書籍案内

「上記のデータから、当施設では比較的重度な認知症者が多いが、意思疎通ができるなど穏やかな生活が送れていると読み解くことができる。つまり、BPSDがでないケアがしっかり実践できている」と服部施設長は分析する。

一方で、明らかな外れ値等も見られることから、自分たちの施設にとって何が必要なデータかを見極めることも重要となる。どのケアに積極的に取り組み、また評価できるケアは何かを把握することで、根拠のある介護を実践している。

LIFEの取り組みには業務効率化が必須

同施設では、CHASEが開始した段階で今後、現在のLIFEのような情報提供システムが必須となると予測し、人材やシステム等の体制を3年前より整えてきた。

まず、データ入力に必要な各種計画書の入力・作成を行う専門職を育成するため看護師、管理栄養士、ケアマネジャーを積極的に採用。さらに、見守りセンサー等の介護ロボットを導入するためにネットワーク環境を整え、データ入力のためのタブレット端末を整備した。

服部施設長は「CHASEなど新しいことに取組む際は、業務改善とセットで考えなければ、現場の負担が大きくなってしまおう」と強調する。このほか、システムベンダーと連携してCHASEに対応するシステム開発にも取り組んだ。

LIFEが開始してからは、まず管理栄養士など専門職が加算算定に必要な計画書を作成。現場スタッフが夜勤の空き時間等を活用しながらデータをシステムに入力する。その後、各分野の専門職と生活相談員が登録内容の最終チェックを行う。

生活相談員でLIFEの管理者の原田崇史さんは「高齢者人口は増え、働き手世代が減少する2040年を目指して、ICT化や人手に頼りすぎない介護手法を考えていかなければならない。現場が負担なくLIFEに取組めるよう、体制を整えていく」と話す。

2021.11 中日新聞社

『三重労働局 令和3年度安全衛生に係る優良事業場「安全衛生努力賞」』に関する取材(介護ロボット)



中 日 新 聞 朝 刊 (第3種郵便物認可)

介護ロボで負担を軽く

介護の現場にロボットを導入する動きが広がっている。民間調査会社によると、市場規模は年々拡大し、二〇二三年度には、二十五億円を超える見通し。人手不足や、利用者の移動を支援する際に腰を痛めるなど職員の仕事が大きいことなどが背景にある。ロボットの活用で、現場の負担を軽減する効果が期待されている。

介護の特養 労災防止へ積極活用

一六年から最新の介護ロボットを導入してきた鈴鹿市深溝町の特別養護老人ホーム「鈴鹿グリーンホーム」。現在、職員に装着し、体への負担を軽減する「パワースーツ」など九機種を配備している。今年二月に投入した移乗支援ロボット「SASURU E(サスケ)」は、ハンモック状のシートで寝たきりの利用者を支え、横になったまま持ち上げることができ、レバー操作のみで移乗作業ができることから、職員の多負担とみさん(仮名)は「腰が痛くなることはな

いし、利用者本人も安定した楽な姿勢でいられる」と利点を話す。ほかにも利用者の排せつのタイミングを予測するロボットや、夜間に利用者が眠っているかどうかを把握できるセンサーを備えたロボットなどがある。厚生労働省によると、腰痛などの労災は、約三割が利用者をベッドから車いすへ移し替える「移乗作業」で起る。特に利用者がベッドから自力で起き上がれない場合、介護者は利用者の体を抱きかかえなければなら

ず、腰への負担が大きい。同施設によると、職員一人当たり一日二十回以上も移乗作業をすることも多いという。服部昭博施設長(仮名)は「職員がけがで離職し、シフトに穴があいてしまうと、他の職員の負担が増してしまふ」と、マネジメン

ト面でも介護ロボットの積極的な導入する意義を強調。一少子高齢化により、高齢者が増える一方、働き手は減ってゆく。業界をリードする覚悟で、さまざまな試みに挑戦し続けた」と話している。

「職員がけがで離職し、シフトに穴があいてしまうと、他の職員の負担が増してしまふ」と、マネジメン

ト面でも介護ロボットの積極的な導入する意義を強調。一少子高齢化により、高齢者が増える一方、働き手は減ってゆく。業界をリードする覚悟で、さまざまな試みに挑戦し続けた」と話している。

国内市場 拡大見込み

※矢野経済研究所の調査を基に作成。メーカー別市場見込み

年次	市場規模(億円)
2018	15
19	18
20	20
21	22
22	24
23	26

市場規模の推移(億円) 予測

三菱UFJリサーチ&コンサルティングの加藤純悟マネージャーは、新型コロナウイルス禍で人と人との接触を減らすため、ロボットの価値が見直されていることも市場拡大の一因と分

「メーカー側が介護現場のニーズをきき詰めていけば、今後もしっかり普及してゆく」と話した。

2021.11.18 中日新聞朝刊

2021.11 公益社団法人全国老人福祉施設協議会 「第78回全国老人福祉施設大会(山口オンライン大会)」講師



分科会

第1分科会 科学的介護の深化
～「LIFE」と「認知症BPSDケアプログラム」の取り組み～

趣旨 後期高齢者と認知症高齢者の増加、福祉・介護の担い手不足、財政的な制約の高まりなどをはじめとした、私たちを取り巻く社会環境の変化に伴い、質的・量的な介護ニーズも日々変化しています。その変化に的確に対応していくには、介護業界の連携はもとより、行政、医療、学術研究機関、地域住民等との協力が重要であり、現場革新と科学的介護の実現を遂げたより高品質な介護サービスの提供が期待されています。

本分科会では、そのような介護新時代へのスタートアップとして、今まで蓄積してきた様々なエビデンスをこれからの介護に効果的に活かし、介護の質を高める上で鍵となる「科学的介護情報システム(LIFE)」と「認知症BPSDケアプログラム」等の開発から、介護の新たな価値について、その可能性を考えていきます。当世代が高齢者となる2025年が目前に迫る中、更に先の2035年の社会に向けたビジョンである「義務の一歩まで、自分らしく生きられる社会」の実現を目指し、今から取り組むべきことを明確にし、介護新時代への船出を迎える場として本分科会を開催いたします。

企画 40分 情報報告 全国老協協老協協研運営委員会 委員長 尾関 英浩

40分 講演 I LIFEの概要について 慶生会専修 老健局 老人保健課

50分 講演 II CHASE～LIFE 一鈴鹿グリーンホーム介護現場・多職種の取り組み事例～
社会福祉法人鈴鹿福祉会 鈴鹿グリーンホーム 施設長 服部 昭博 氏

50分 講演 III コロナ禍における認知症の人や家族への支援について
国立法大広島大学

40分 講演 IV 認知症BPSDケアプログラムについて(仮)
東京都医学総合研究所 社会健康医学研究センター センター長 西田 淳志 氏

70分 シンポジウム 認知症BPSDケアプログラム実施施設の事例紹介(仮)
調整中

シンポジウム 東京都医学総合研究所 社会健康医学研究センター センター長 西田 淳志 氏



大会報告冊子(2022.3)

講演 II CHASE-LIFE

～鈴鹿グリーンホーム介護現場・多職種の取り組み事例～

服部 昭博 氏
社会福祉法人鈴鹿福祉会
特別養護老人ホーム
鈴鹿グリーンホーム
施設長

ユニット型の特別養護老人ホームと併設のデイサービスを運営するなかでICTを導入、活用してきた。Wi-Fi、介護記録ソフト、インカム、NAS(ネットワークHDD)などを導入している。また、介護ロボットは導入から5年が経過し、装着型乗乗支援機など9機種を活用している。

事例として、たとえば、見守り支援機器で睡眠状態を自動記録し、排せつ予測デバイスを手元の端末で確認することで、夜間の訪問回数が減少したことがある。

介護職員にアンケートを取ったところ、「介護記録は手書きに戻れますか?」は「いいえ」が75%、「機器や介護ロボットのない介護に戻れますか?」は「いいえ」が85%だった。ICT・介護ロボット・データの活用によるケアの最適化のプロセスは、職員の自信や職場の満足感の向上につながる。

LIFEへの体制整備では既存の会議システムを生かしたり、多くの職員が入力にかかわれる体制を整備したりするなど、特定の職員の負担を増やさない方法を探った。

LIFEのフィードバックは始まって期間が短いので、まずはデータの比較を行い、ケアの方針立てに活かしている。LIFEはこの先さらに活用できる可能性を秘めている。データについての理解やスキルを高めていく必要があるが、最前線にいる職員が良い方法を提案していけば、現場本位の運用をリードできるだろう。

Point

- ICTや介護ロボットの活用は、職員の自信や職場の満足感につながる
- LIFEへの体制整備は職員の負担を増やさない方法を探った
- 職員が提案することで、現場本位のLIFEの運用をリードできるはず

2021.11 三重県・社会福祉法人三重県社会福祉協議会 「みえ介護フェア2021」参画 (イオンモール津南とオンラインのハイブリッド開催)

みえ介護フェア2021
11月7日(日)～30日(火)
視聴無料

見て、聴いて、参加して
今年も開催! みえ介護フェア2021
コロナ禍において、「エッセンシャルサービス」の提供が求められる中、「介護」としてのイベントへの参加、視覚で豪華な展示も期待されています。
会場開催について / 本

介護ロボット
【介護現場のIC...】
SCAN / Neos+Care
バラマウントベット社製 / ノーリツプレジジョン社製

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、本イベントはオンライン開催となります。随時本Webサイトの「お知らせ」欄にてお知らせいたします。



介護記録ソフト
【介護現場のIC...】
ケアコロポ
ケアコロポ株式会社
ICTケア記録システムです。いつでもどこでも簡単にスマホやタブレット、そしてパソコンで、文字や写真・動画も記録でき、外出先からでも手軽に記録や閲覧ができます。
協力: 加すみの里

介護ロボット
【介護現場のIC...】
眠りSCAN / Neos+Care
バラマウントベット社製 / ノーリツプレジジョン社製
見守り支援型のロボットです。ご利用者の睡眠状況などを手元のタブレット端末でリアルタイムで見ることができます。
協力: 鈴鹿グリーンホーム

インカム
【介護現場のIC...】
インカム
KENWOOD社
トランシーバーにイヤホンをつけて使用しています。主にケアスタッフ間のコミュニケーションに使用しています。スタッフ間の情報共有や新人スタッフのサポート、フロア環境の向上など様々な場面で活用しています。
協力: 安全の里

介護ロボット

眠りSCAN / Neos+Care

バラマウントベット社製 / ノーリツプレジジョン社製

見守り支援型のロボットです。ご利用者の睡眠状況などを手元のタブレット端末でリアルタイムで見ることができます。

協力: 鈴鹿グリーンホーム



2021.12 伊勢新聞掲載

『「ショートステイ開所ー積極的に介護ロボ活用ー』



きょう 積極的に介護ロボ活用

ショートステイ 鈴鹿開所

【鈴鹿市岸田町の「音室」の状況を職員がスマートフォンで確認する。モニターには、施設の様子や利用者の様子などが映り、音声で状況を伝える。】

岸田町の「音室」の状況を職員がスマートフォンで確認する。モニターには、施設の様子や利用者の様子などが映り、音声で状況を伝える。施設は敷地面積約二千六百平方メートル、建坪面積約千四百平方メートル、利用定員は三十人。短期介護支援事業所を併設する。

積極的に介護ロボットの導入が特徴で、利用者の睡眠時の呼吸や脈拍の状態、1日に開所した「ショートステイ 鈴鹿」の運営で、

北勢
Local News

北勢総局 鈴鹿市自由ヶ丘1-17-1-202
☎059(373)4110 FAX059(374)2104

きょうの指数情報

四日市

洗濯

1.乾かすのに3時間かかる
2.乾かすのに2時間かかる

風邪ひき

2.注意

紫外線

2.やや強い

日本気象協会提供

購読申し込みは
本社販売局
☎059(224)4400
フリーFAX
☎0120(26)3554

伊勢新聞 (2021.12.1)

2021.12 福祉新聞掲載

『「ロボットのない介護に戻れない」ー導入から5年、労働負担を軽減ー』

「ロボットのない介護」に戻れない
導入から5年、労働負担を軽減



衣服型パワーアシストスーツで腰の負担を軽減



介護ロボットの導入を進めてきた 岸田さん（右）と古川敏彦さん

「鈴鹿市岸田町の特別養老ホーム「鈴鹿グリーンホーム」は、5年前から10種類の介護ロボットを導入し、ICTへ情報通信技術も活用して、介護ロボットを「現場で活用する」ための取り組みを進めている。現場の負担を減らし介護の質の向上を実現している取り組みとして、

【鈴鹿市岸田町】特別養老ホーム「鈴鹿グリーンホーム」は、5年前から10種類の介護ロボットを導入し、ICTへ情報通信技術も活用して、介護ロボットを「現場で活用する」ための取り組みを進めている。現場の負担を減らし介護の質の向上を実現している取り組みとして、

「導入は2017年...」

「導入は2017年...」

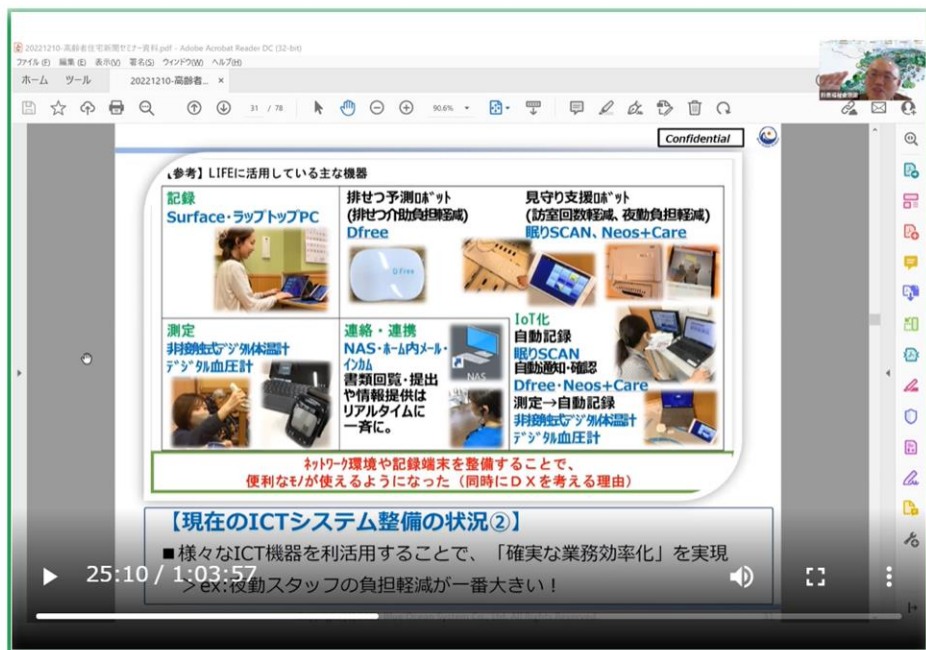
福祉新聞 (2021.12.21号)



2021.11 介護ロボットの新たな活用
装着型移乗支援ロボット「J-PAS」
をショートステイの送迎において使用



2021.12.10 高齢者住宅新聞社 「第7回 住まい×介護×医療サミット」登壇



2022.1.12 株式会社BlueOceanSystem、クレイトルや けやま様(新潟県)、高齢者住宅新聞社(取材) 「LIFEに関する意見交換会」



「日経ビジネス 底流 介護データベースは助走中 遠いケア最適化」掲載

今春、インターネット上で一風変わったイベントがあった。「LIFE (ライフ) 入力選手権」。高齢者施設の職員が介護記録をいかに早く効率的にデータ入力できるかを競った。

LIFEは厚生労働省が「科学的介護情報システム」と銘打って2021年度から運用を始めたデータベースの取り組みで、全国約6万施設が参加登録した。介護記録を集め、ケアの効果を分析し、サービスの改善に役立てる狙いがある。

問題はデータ入力に手間がかかることで、現場から不満が漏れていた。選手権では、アンケート形式で質問に答えるだけで入力できる手作りソフトも登場した。主導した九州工業大学の井上創造教授は「データ入力でつまづく施設が多く、先進事例を共有するために開催した」という。

厚生労働省はデータ入力に応じる施設に介護報酬加算を上乗せし、IT (情報技術) 環境の整備に補助金もつける。躍起になるのは介護サービスの適正化が大きな課題になっているからだ。介護は勘と経験頼みで、客観的な評価が難しい部分もあった。「高い報酬を得るためにケアを上乗せする施設もある」とささやかれてきた。

日本の介護給付は年10兆円を超え、保険制度が始まった00年度の3倍以上に膨らんだ。財政は火の車だ。財源の半分を占める保険料は平均月6000円を超えた。「これ以上、上げるのは難しい」(厚労省幹部)との見方がある。

データベースをうまく活用できれば無駄をあぶり出せる。もちろん施設側にもメリットはある。特別養護老人ホームなどを運営する鈴鹿グリーンホーム (三重県鈴鹿市) の服部昭博施設長は「今後、介護人材が足りなくなるのは明らか。ケアの最適化が必要な段階だ」と期待を寄せる。

まだ軌道に乗るには至っていない。9月下旬、厚労省の専門家会議ではこの先の展望を問う声が出た。今は苦勞して記録を入力しても、全国平均などの統計データが返ってくるだけ。ニッセイ基礎研究所の三原岳氏は「フィードバックがわかりにくい」と指摘する。介護の改善に生かす段階は遠い。

「数年後には個々人に必要なケアが例示できるようになる」という厚労省の説明に関係者は半信半疑だ。かたちばかりのシステムに終わるなら、貴重なデータも宝の持ち腐れになる。助走が長引くようだと、介護の適正化はかすむ。

2021.12 三重県社会福祉協議会
「みえ働きやすい介護職場取組宣言事業所」
メッセージ動画」Web公開



【みえ働きやすい介護職場取組宣言】社会福祉法人鈴鹿福祉会～働きやすい介護職場に向けた法人の取り組みについて～

19 回視聴・2021/12/21

みえ働きやすい介護職場取組宣言
チャンネル登録者数1人

社会福祉法人鈴鹿福祉会の働きやすい介護職場に向けた法人の取り組みを紹介します。

◆社会福祉法人鈴鹿福祉会
もっと見る

チャンネル登録

2020年度は「介護ロボット(見守り支援
機器)の現場活用動画」を公開



2022.1 高齢者住宅新聞
「LIFEデータを深掘」掲載

**LIFEデータを活用による
介護DX推進**

株式会社
ブルーオーシャンシステム
営業部 営業課長
沖本 崇
(おきもと たかし)

映像制作会社、アパレルカメラマンから介護業界へ入社。営業部門、カスタマー部門を経て現在は主に営業推進、広報活動に従事。創業から介護業界のDX化を推進する会社の思いを伝えるエンバジエリットとして活躍中。

暫定版データから読み取れること

生活改善の具体的な取り組みができた」と成果を実感されています。そこで、業界全体で大きく期待されるLIFEデータの活用ですが、現在まで暫定版データの提供に留まり、具体的な活用ができていないの意見も聞かれます。

鈴鹿グリーンホームでは、事業所LIFEデータにより、認知症高齢者の日常生活自立度を中心に、

要介護度、認知症診断結果、バイセルインテックス合計点などのデータを「全園平均」と「当園平均」とを比較し施設の従来ケアを徹底することに間違いないことが確認できました。またデータを利用すれば、利用者家族や関係機関へLIFEデータの取組みや実績を説明できます。さらに三重県内の工業地帯、山間部、都市部などのエリアごとにデータを区別できれば、より活用の幅が広がります。今回はユーザー自身で作成したオリジナル操作研修マニュアルより、稼働現場に応じた活用事例を紹介します。

2022.2 高齢者住宅新聞
「LIFE活用による介護DX推進-
第9回コラム フィードバックの活用
事例一」掲載

2022.1 三重県・三重県社会福祉協議会 「みえ働きやすい介護職場取組宣言事業所」取組紹介集

みえ働きやすい介護職場 取組宣言事業所

取組紹介集



2022年10月時点

三重県・社会福祉法人 三重県社会福祉協議会

**社会福祉法人
鈴鹿福祉会**

法人所在地 〒519-0321 三重県鈴鹿市深淵町字北林2956番地
TEL 059-374-4600
URL <https://suzuka-greenhome.jp/>
取組事業所 特別介護老人ホーム 鈴鹿グリーンホーム (鈴鹿市)
特別介護老人ホーム 鈴鹿グリーンホーム 知用入所生活介護事業所 (鈴鹿市)
デイサービスセンター 鈴鹿グリーンホーム (鈴鹿市)

詳しい宣言情報はこちら

取組宣言 働き方を改善して、仕事と家庭の両立を図る。

取組 1 テクノロジーの進歩が、とにかくスゴイんです!!

KAIGO × テクノロジー

テクノロジーをフル活用し介護にチャレンジ

①ICT：インカム、介護記録ソフト、機能訓練情報のウェアラブル端末管理、見守り支援機器からの情報受信、オンライン面会・研修・会議、計測機器の自動記録、音声入力等

②ロボット：移動支援、見守り支援、排せつ支援、コミュニケーション 10機種

③IoT：見守り支援ロボット、体温計測情報、排せつ予測情報を1機未管理

取組 2 コンテンツ"盛りだくさん"のホームページ!

KAIGO × ホームページ

活動内容は全てホームページで公開

ホームページは大変なメッセージアイテム

年間30万を超えるページビューをいただいています。

ご覧いただいた方からは、よく、「ここまで公開してもいいの!」と言われることがあります。盛り①：「グリーンホームだよ!」

1日1記事のペースで記事を掲載しています。ぜひ一度ご覧ください。

盛り②：「情報公開」

盛り③：「ワークライフバランス」

職員の声

私たちの職場では、ICTやテクノロジーを多く取り入れているんです。そのおかげで体力的や精神的にとっても楽なんです。よってホームページを使って、地域の理解や安心感、職場内の風通しの良さを伝えられているな◎と思っています。スタッフ一人ひとりがワークライフバランスを意識して利用者とゆったりと向き合える素敵な職場です◎

鈴鹿グリーンホーム
ユニットリーダー アワークー
三林 琴美 田中あかり

2022.2 三重県老人福祉施設協会 広報誌「みえ老施協 vol.72」掲載

コンセプトは「とりあえず、やってみる。」

「みえ働きやすい介護職場取組宣言」項目の実行

ICT(情報通信技術)・介護ロボットのフル活用

活動は「ホームページ」で公開

「ホームページ」で全て公開
1日1記事以上のペース、ホームページの公開
「活動内容は全てホームページで公開」
～活動は広く知ってほしいので積極的に～

「ええな〜!」が日常です。ぜひみなさまも是非〜!してきてほしい。スタッフもがんばります。

三重県「みえ働きやすい介護職場取組宣言」取組宣言第1
宣言：「働き方を改善して、仕事と家庭の両立を図る。」

デジタル化「全館WiFi完備」「記録や連絡など楽々」

全10機種

活動は「ホームページ」で公開

当施設は、津市高西側にご位置する。宅前を抜けた地域の敷地内にあり通所・通所療育グループホーム診療所・保育地域総合センター。利用者の皆様のご提供。特に利用。思。ま。

ごあいさつ
我が家!施設・利用者様自慢
スタッフ投稿コーナー
Information
高齢者施設及び障害福祉施設の従事者
した新型コロナウイルス感染症に係る社
検査(PCR検査)実施概要
三重老施協加入施設・編後記等



2022.3 株式会社ジェイテクト様 ホームページ (協力:N&Fテクノサービス株式会社様) 「J-PAS fleairy 導入・体験者インタビュー」掲載



- ABOUT J-PAS fleairyとは
- KNOW MORE もっと知る
- INTRODUCE 導入する
- PURCHASED 購入された方へ

－田中様の現在の業務内容を教えて頂けますか

主に入浴介助です。他にも食事介助やおむつ交換をしております。
※田中様は鈴鹿福祉会様で9年のキャリアをお持ちとのことで、上記以外にも
－ルマイティにご活躍されております。

－導入前に抱えていた課題、選定に至る経緯を教えてください

法人としては以前から装着型のロボットを導入し、使用しておりました。

今回、販売店様からフレアリーのお話を頂き、試してみたところ、職員からの評
価もとてもよく、使用感も他のロボットに比べて全然違いました。
着脱も簡単、体の負担にもならない。お風呂場ではどうしても介助が必要な場面
が多いのですが、フレアリーはお風呂場でも使用できるということがとても良か
ったんです。

今までの装着型ロボットは、一日中着けていても負担を感じないものがありませんでした。でもフレアリーはずっと着けていられます。

フレアリーは日常的にずっとつけていても、介助以外のお仕事もしやすく。

フレアリーは日常生活で必要となる動作（しゃがむ、座る、歩く）などもしやすいことで、一日中着用していられますから、着けたり外したりの手間を減らせることも
大きな魅力で選定の決め手となりました。



田中様 (左) 原田様 (右)



2022.3.31 CFロボタス様 ホームページ 「導入事例【J-PAS fleairy①】」掲載



アシストスーツ一覧から探す 特集&コラ

ホーム > NEWS >

導入事例【J-PAS fleairy①】

NEWS 導入事例をみる © 2022年3月31日

「これいいね！と女性や年配スタッフの救世主に」

これまでの装着型スーツのイメージを覆すほどの使用感が導入の決め手に！



鈴鹿グリーンホーム様
特別養護老人ホーム

お悩み

- ・大柄な人の入浴介助で負担が大きい
- ・中腰姿勢が続く作業で腰への負担が大きい

業務内容

入浴介助
ベッド上での排泄支援やシーツ交換
移乗介助

事例提供：株式会社ジェイテクト様





ケアの質の向上に向けた
科学的介護情報システム（LIFE）の
利活用に関する事例集

令和4年3月

介護老人福祉施設

事例 08 利用者の状態に着目したフィードバックのケアへの活用

ポイント：ADLに着目して、全国平均との比較により自施設の特徴を考察し、特徴の見られた項目について、ケアを改善していく利用者の確認と改善方針の検討を行いました

※本事例は、社会福祉法人鈴鹿福祉会 特別養護老人ホーム 鈴鹿グリーンホーム様に図表を提供いただき、作成したものです。

取組のコンセプト：とりあえず、やってみる！（興味を持って触ってみる）

- 鈴鹿グリーンホームでは、ケアの質を維持しつつ業務負担を減らすことを目的として、ケアの最適化に向けた取組を実施しています。
- 「とりあえず、やってみる」のコンセプトのもと、様々なテクノロジーの活用を進めるとともに、PDCAサイクルを確率高く回すツールとしてLIFEを活用しています。

当ホームの職員配置

職種	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護職員	4 (1)	4 (0)	4 (0)	4 (0)	4 (0)	4 (0)
介護士	9 (0)	9 (0)	9 (0)	9 (0)	9 (0)	9 (0)
介護士補	9 (0)	9 (0)	9 (0)	9 (0)	9 (0)	9 (0)
介護士見習い	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)
福祉施設長	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
施設副長	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
事務職員	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)
調理士	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
施設医	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

【特徴】科学的介護情報システム（LIFE）活用によるケアの最適化に向けた取組の様子

出典：社会福祉法人鈴鹿福祉会 特別養護老人ホーム 鈴鹿グリーンホーム様

フィードバック（暫定版）を活用した自施設の特徴の把握

①利用者の状態像の傾向の把握

- まずは、利用者の状態像について、自施設の傾向を把握する目的で、以下の流れでフィードバック（暫定版）を見てみました。

分析の視点

自施設の利用者の傾向の概要は？

確認のプロセス

以下の項目について令和3年10月の利用者の平均値を算出し、フィードバック（暫定版）の「全国平均」と比較

- 平均要介護
- 平均年齢
- 障がい高齢者の日常生活自立度
- 認知症高齢者の日常生活自立度

気づき・考察

全国と比較して、重度の利用者がやや多い傾向

全国平均より0.06高い
平均要介護：4.02
平均年齢：75.8歳
障がい高齢者の日常生活自立度（Cランク）：全国平均より0.25低い
認知症高齢者の日常生活自立度（N・Mランク）：全国平均より0.24高い

出典：社会福祉法人鈴鹿福祉会 特別養護老人ホーム 鈴鹿グリーンホーム様

介護老人福祉施設

事例 10 各種計画書に着目したケアプランの見直しへの活用

ポイント：ケアプランの見直し時に各種計画書を並べて確認することで、以前のケアプランよりも多職種の見点が加わり、ご本人の希望するサービスや自立支援につながる内容に近づけました

※本事例は、社会福祉法人鈴鹿福祉会 特別養護老人ホーム 鈴鹿グリーンホーム様に図表を提供いただき、作成したものです。

各種様式を並べて「なぜこのような評価になっているのか」を順番に考察

- LIFEの利活用に関連して、栄養・口腔・排せつ・褥瘡など複数の観点について、多職種が評価を行い、計画書を作成しています。
- これらの計画書を施設ケアマネジャーが確認することで、ケアプランの見直しの際に、多職種による評価の視点を反映できるのではないかと考えました。
- そこで、ある利用者の各種計画書を、まずは施設内の喫茶コーナーに並べてみて、気になった点にラインマーカーを引いていきました。

出典：社会福祉法人鈴鹿福祉会 特別養護老人ホーム 鈴鹿グリーンホーム様

- 並べて眺めてみることで、以下のような事項に気づきました。

確認のプロセス

（下記の左側）

- 自立支援の取組により機能回復・重症化防止の効果が「期待できる」項目はどれか？
- 「期待できる」と評価された要因は？ 改善に向けて、どのような視点が考慮が必要なのか？
- 他の様式の関連する項目はどのように評価されているか？
- ご本人の希望や関心は？

（下記の右側）

- 上記の項目は、どのように変化しているか？

■算出した関連数値結果

項目	令和3年10月	令和3年11月	令和3年12月	令和4年1月	令和4年2月	令和4年3月
平均要介護	4.02	4.02	4.02	4.02	4.02	4.02
平均年齢	75.8	75.8	75.8	75.8	75.8	75.8
障がい高齢者の日常生活自立度	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
認知症高齢者の日常生活自立度	0.24	0.24	0.24	0.24	0.24	0.24

出典：社会福祉法人鈴鹿福祉会 特別養護老人ホーム 鈴鹿グリーンホーム様

ケアプランにおいて、自立支援の観点から「していること」を維持し、QOLを含めた自立支援の観点から「してみたい・興味があること」を、日常生活の中に組み込めないかを考えました。



トピックス



デイサービスや単独型ショートなども併設



服部昭博施設長(右)と生活相談員の原田崇史さん

三重県鈴鹿市「鈴鹿グリーンホーム」
LIFE様式はケアプラン改善の重要ツール

三重県鈴鹿市の鈴鹿グリーンホーム(社会福祉法人鈴鹿福祉センター)は、定員の入居者(高齢者)のケアプラン(ケアプラン)の作成に、LIFE様式(2022年4月10日号)に掲載された「LIFE様式」を取り入れた。LIFE様式は、ケアプランの作成に、LIFE様式(2022年4月10日号)に掲載された「LIFE様式」を取り入れた。LIFE様式は、ケアプランの作成に、LIFE様式(2022年4月10日号)に掲載された「LIFE様式」を取り入れた。



各居室のシルエットセンサーで起き上がりや離床などを検知、記録システムと連動させ、管理できる



ナースコールは、シート型センサーの付属機能を活用

各居室のシルエットセンサーで起き上がりや離床などを検知、記録システムと連動させ、管理できる。LIFE様式は、ケアプランの作成に、LIFE様式(2022年4月10日号)に掲載された「LIFE様式」を取り入れた。

生活への多様な支援を実現。LIFE様式は、ケアプランの作成に、LIFE様式(2022年4月10日号)に掲載された「LIFE様式」を取り入れた。LIFE様式は、ケアプランの作成に、LIFE様式(2022年4月10日号)に掲載された「LIFE様式」を取り入れた。

利用者の状況や支援方針を考慮。LIFE様式は、ケアプランの作成に、LIFE様式(2022年4月10日号)に掲載された「LIFE様式」を取り入れた。LIFE様式は、ケアプランの作成に、LIFE様式(2022年4月10日号)に掲載された「LIFE様式」を取り入れた。



センサーを設置した居室

ICTも有効活用。LIFE様式は、ケアプランの作成に、LIFE様式(2022年4月10日号)に掲載された「LIFE様式」を取り入れた。LIFE様式は、ケアプランの作成に、LIFE様式(2022年4月10日号)に掲載された「LIFE様式」を取り入れた。

「ADL」項目に着目した個別ケアへの活用事例

令和3年10月サービス提供分 LIFEフィードバック(暫定版)「ADL(割合・平均値)」

項目	自立	全国平均		当ホーム		差異
		割合	平均値	割合	平均値	
食事	全介助(0)	2.9%	2.5%	4.2%	4.4%	▲1.2%
	一部介助(5)	3.0%	4.2%	4.2%	4.4%	▲1.2%
	自立(10)	4.1%	3.1%	4.2%	4.4%	▲1.0%
椅子とベッド間の移乗	全介助(0)	4.2%	2.7%	4.2%	4.4%	▲1.5%
	一部介助(5)	2.1%	1.9%	2.4%	2.8%	▲0.7%
	自立(10)	2.4%	3.6%	2.4%	2.8%	▲1.4%
整容	全介助(0)	5.2%	3.5%	5.2%	4.4%	▲0.8%
	一部介助(5)	3.1%	2.7%	3.1%	2.8%	▲0.7%
	自立(10)	1.7%	3.8%	1.7%	3.8%	▲2.1%
トイレ動作	全介助(0)	5.5%	4.7%	5.5%	4.4%	▲1.1%
	一部介助(5)	3.6%	4.4%	3.6%	4.4%	▲0.8%
	自立(10)	9.9%	9.9%	9.9%	9.9%	0%
入浴	全介助(0)	6.6%	4.9%	6.6%	4.4%	▲2.2%
	一部介助(5)	3.2%	5.1%	3.2%	5.1%	▲1.9%
	自立(10)	2.2%	0%	2.2%	0%	▲2.2%
平地歩行	全介助(0)	6.2%	5.3%	6.2%	4.4%	▲1.8%
	車いす操作が可能な歩行器等(10)	2.1%	2.8%	2.1%	2.8%	▲0.7%
	自立(15)	1.1%	9%	1.1%	9%	▲7.8%
	自立(15)	6%	1.1%	6%	1.1%	▲4.9%

「ADL」項目に着目した個別ケアへの活用事例

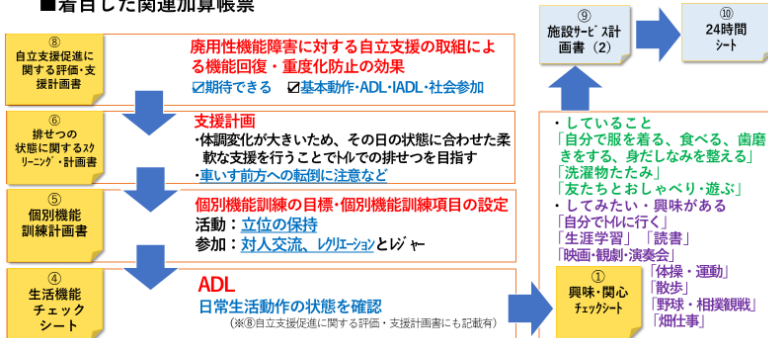
「排せつのコントロール」と「排せつ方法」

項目	トイレでの排せつ(日中) 11名			おむつ又はベッド上でバット交換(日中) 6名		
	自立等(10)	一部介助(5)	全介助(0)	自立(10)	一部介助(5)	全介助(0)
排便コントロール	AG J K M P	CH I N Q				B D E F L O
排尿コントロール	AG P	CH I J K M N Q				B D E F L O

当ホームスタッフの「経験」と「感覚」→個別ケアをきちんと実施していることがわかった!

LIFE関連加算帳票等に着目したケアプランへの活用事例

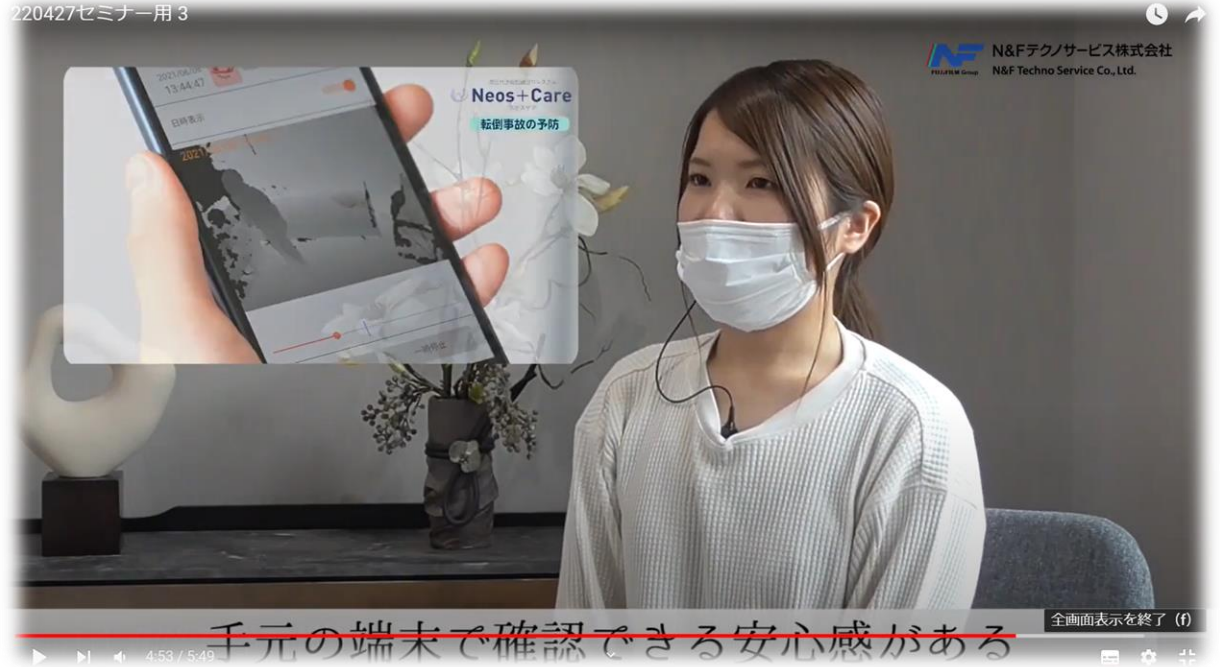
■着目した関連加算帳票



2022.3 三重県民の日
「県民フラワープロジェクト」協力
2022.4 イベント出席



2022.4 N&Fテクノサービス株式会社様
「Webセミナー 介護品質向上と業務負担軽減の同時実現」
当会ケアスタッフのインタビュー動画配信



令和4年県民の日 記念事業
【テーマ】**花と緑で育む地域の絆**

●**県民フラワープロジェクト**
【メイン会場】令和4年4月16日(土) 10時～11時
鈴鹿フラワーパーク(東エントランス広場)
「鈴鹿市制施行80周年記念事業 キックオフイベント」と協同開催
【サテライト会場】令和4年4月15日(金)から令和4年4月18日(月)
県内15箇所の道路や河川で花植えイベント

●**県内公共施設の無料開放等**
令和4年4月16日(土)から令和4年4月18日(月)
MieMu・県立美術館・斎宮歴史博物館など66施設で無料開放や割引等
記念事業の詳細については県ホームページをご参照ください。

三重県 県民の日 検索

導入事例紹介動画(YouTube)



2022.6 フルノシステムズ株式会社様 「ショートステイ翠風における無線LANシステムの活用事例」



◆ スタッフの業務効率の向上に貢献

無線LANが各フロアをカバーしているため、スタッフは施設内の至る所でICT端末を活用できます。スタッフが所持しているノートPCやタブレット端末には介護ソフトがインストールされており、入力した各種情報をクラウドサーバに一元化できます。また、デジタル体温計や血圧計で測定した数値も介護ソフトに自動的に記録されるため、記録や入力業務の負担軽減に役立っています。業務の合理化や効率化といった点でも、無線LANは多大な役割を担っています。



お客様の声

鈴鹿グリーンホームでは、利用者の方々の生活の質を高める手段として、ICT機器や介護ロボットといったテクノロジーを積極的に導入してきました。テクノロジーの導入に着手した背景には、これから訪れる地域の人口動態の課題がありました。今後20年で、鈴鹿市の生産年齢人口は約2割減ると言われており、当施設の職員数もそれに比例すると予想されます。一方で、要介護リスクを抱える75歳以上の人口は約35%増えるとも言われています。そのような課題に対して真剣に向き合い早期に手を打たねば、介護の現場は成り立たなくなり、介護を必要とする地域の方々に満足いくケアをお届けできなくなります。



◆ その1. ICT機器や介護ロボットを用いたシステムの安定稼働

ICT機器や介護ロボットなど各種機器を動かすための、独自のシステム構築を要している鈴鹿グリーンホーム。介護の現場では最速かつ少ない人数で対応できることが、システムの稼働を止めない安定したネットワーク環境の構築が求められていた。

◆ その2. 利用者の方々の生活の質向上とストレス軽減

利用者の健康状態を把握するための移動センサー（安心ひつじ）や、ベッドからの転倒や歩行、転倒などの動作を感知する負傷検知システム（Neos+Care）などの介護ソフトを各機器に連携することで、スタッフの入力作業を減らし、介護現場の負担を軽減し、スタッフのストレス軽減や心地よくなることにもつながります。また、デジタル体温計や血圧計で測定した数値も介護ソフトに自動的に記録されるため、記録や入力業務の負担軽減に役立っています。

◆ その3. クラウドサーバによるシステム運用

ICT機器や介護ロボットを動かすためのシステムを構築するにあたり、従来のサーバをクラウドサーバで置き換えることで、クラウド上で各種システムを運用するために、高品質なネットワーク品質の向上が求められていました。ACERAの設置によりクラウドサーバの運用が可能になったことで、業務負荷の軽減につながっていることに加え、新たな機器の追加やシステムの変更についても簡単に行うことが可能になりました。



社会福祉法人
鈴鹿福祉会
鈴鹿グリーンホーム

理事 部長
原田 拓博 様 (40)

生活福祉員
原田 拓史 様 (49)

ユニバーサル
方田 太志 様 (48)

2022年4月取材

USER PROFILE

社会福祉法人 鈴鹿福祉会
鈴鹿グリーンホーム

社会福祉法人 鈴鹿福祉会
鈴鹿グリーンホーム

◎ 理事長：中村 敏
◎ 施設長：原田 拓博
◎ 所在地：三重県鈴鹿市深溝町2556番地
◎ 創立：1992(平成4)年
◎ 鈴鹿グリーンホーム開設：1993(平成5)年
◎ ホームページ：https://suzuka-greenhome.jp/

お問い合わせは
株式会社フルノシステムズ
本社 〒130-0026 東京都墨田区両国 3-25-5 JEI 两国ビル
TEL：03-5600-5111(代)
www.furunosystems.co.jp

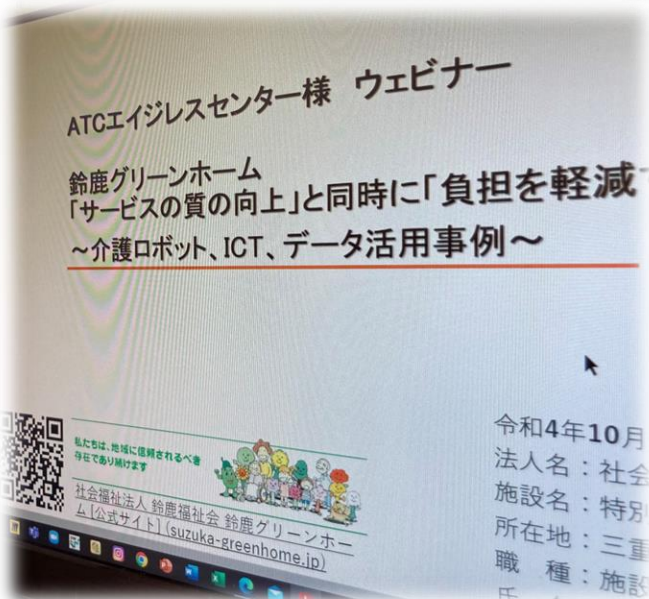
2022.9 小林史明代議士インスタライブ 「デジタル×高齢者福祉」参加



2022.10 株式会社ジェイテクト様YouTube
 「【導入事例】社会福祉法人 鈴鹿福祉会 鈴鹿グリーンホーム様でのJ-PAS
 fleairyご使用の様子を撮影させていただきました」



2022.11 ATCエイジレスセンター株式会社様、株式会社
 シルバー産業新聞社様ウェビナー
 『介護ロボット・ICTの利活用』登壇



2022.11 福井県坂井地区広域連合議会様 視察
「介護ロボット・ICTに利活用状況、健康寿命延伸の取組」など



2022.11 三県社会福祉協議会（三重県委託事業）
「みえ福祉・介護フェア2022」参画（三重県老人福祉施設
協会 会員として（5年連続参画））

三重テレビ放送「NEWSウイズ」で報道【於：イオンモール津南】



2022.12 高齢者住宅新聞社様 第12回介護経営サミット(オンライン)登壇 「LIFE算定とフィードバック有効活用その業務時間を捻出するICT活用」

12月8日(木) 13:15~14:15

【10】LIFE算定とフィードバック有効活用その業務時間を捻出するICT活用
～とりあえず、やってみる(トライ&エラー)～

社会福祉法人鈴鹿福祉会 鈴鹿グリーンホーム 服部昭博施設長
ブルーオーシャンシステム カスタマーサービス部 岡本 健治部長

試行も合わせて2年半LIFEに取り組み、そのデータを活用を独自に進めて来た現状と適切な評価や帳票作成の時間を捻出しているICT活用の事例を紹介します。



社会福祉法人 鈴鹿福祉会
鈴鹿グリーンホーム

Voxela
歳を重ねる喜びへ



株式会社ブルーオーシャンシステム

2022.12 テクノエイド協会三重支部様



「みえ福祉用具フォーラム
2022」において事例報告
（「当会における介護現場革新について～介護サービスの質の向上と同時にスタッフの負担軽減を図る～」）

2022.12 株式会社ジェイテクト様 「広報素材にかかるインタビュー・撮影」



2022.1 公益社団法人全国老人 福祉施設協議会 「第1回全国老人福祉施設大会・ 研究会議～JSフェスティバル栃木 ～徹底生討論会」登壇



2022.2 ユマニテック医療福祉大学校様 「オープンキャンパス」(ケアテックの展示・体験)



2023.1 シルバー産業新聞様 「科学的介護は現場での工夫・考察の中に」

シルバー産業新聞 2023年(令和5年)1月10日(火曜日) (1B)

トピックス **データを「見る力」育む**

科学的介護は現場での工夫・考察の中に

鈴鹿グリーンホーム

「科学的介護」とは、科学的なアプローチを用いて、高齢者の生活の質を向上させることを目指す介護のことです。現場での工夫・考察が、科学的介護を実現する鍵となります。

現場での工夫・考察は、日々の業務の中で行われます。例えば、高齢者の生活リズムに合わせてケアを提供したり、高齢者の興味関心に合わせて活動を提供したり、高齢者の生活環境を整えたり、などです。

現場での工夫・考察は、科学的介護を実現するために不可欠です。現場での工夫・考察を積み重ね、科学的介護を実現していきましょう。

2023.2 三重県介護福祉士養成施設協議会様 「オンライントークで気軽に介護のお話！」 登壇

私たちは人の幸せを創るデザイナーです。

介護×クリエイティブ

知ってる？ ICTで最新の介護 修学資金・奨学金のこと

教えて！ 仕事やお給料のこと 介護の資格が取れる 学校のこと

聞かせて！ 職場の雰囲気 キャリアアップのこと

介護の仕事のリアルを知りたい / 介護の仕事を実音で語ります

オンライントークで 気軽に介護のお話！

2023年 2月5日 10:00~12:00

参加希望の方はこちらのQRコードからお申し込みください

私が お話しします ●施設の職員(施設長、若手職員) ●介護福祉士養成施設の学生・教員 ●留学生

●皆さんからの質問も受け付けています。申込フォームからどうぞ聞いてくださいね。

●申込の方には後日Zoomのアドレスをお送りします。

申込締切 2023年1月31日(火) 18時

主催：三重県介護福祉士養成施設協議会
四日市福祉専門学校、鈴鹿オフェスワーク産康福祉専門学校、専門学校ユマニテック医療福祉大学校、高田短期大学

後援：三重県・三重県社会福祉協議会・三重県介護福祉士会・三重県老人福祉施設協会・三重県老人保健施設協会

運営事務局 株式会社デルタスタジオ
四日市市安部 1-3-31 トナリエ西四日市 4 階
お問い合わせ 059-355-1320 (平日 10:00~17:30)

2023.2 農林水産省ホームページ 『「野菜サポーター」の野菜消費拡大に関する取組』掲載

社会福祉法人 鈴鹿福祉会鈴鹿グリーンホーム



- ▶ ホームページ： <https://suzuka-greenhome.jp/> [外部リンク]
- ▶ 野菜消費拡大に関する取組 (取組実績は適宜こちらに掲載いたします。)

○当通所介護事業所「デイサービス鈴鹿グリーンホーム」において、野菜を用いたおやつづくりを実施。野菜の消費拡大の啓発と、野菜をおやつ食材にすることで、感覚良くおいしく食べられることについて啓発。

(下記リンク) 当会ホームページ「グリーンホームだより」記事

2022年10月：
野菜たっぷりウイナーパン☆ | 社会福祉法人 鈴鹿福祉会 鈴鹿グリーンホーム [公式サイト] [外部リンク]
ウイナーパン | 社会福祉法人 鈴鹿福祉会 鈴鹿グリーンホーム [公式サイト] [外部リンク]

2022年11月：
かぼちゃまんじゅう作りました♪ | 社会福祉法人 鈴鹿福祉会 鈴鹿グリーンホーム [公式サイト] [外部リンク]
かぼちゃまんじゅう作り☆ | 社会福祉法人 鈴鹿福祉会 鈴鹿グリーンホーム [公式サイト] [外部リンク]

2022年12月：
焼きドーナツ | 社会福祉法人 鈴鹿福祉会 鈴鹿グリーンホーム [公式サイト] [外部リンク]
焼きドーナツ2日目! | 社会福祉法人 鈴鹿福祉会 鈴鹿グリーンホーム [公式サイト] [外部リンク]



2023.2 厚生労働省 公益財団法人テクノエイド協会 「介護ロボット導入活用事例集2022」



介護ロボット 導入活用事例集 2022



移乗介助(非装着型)

ロボット介護機器-移乗アシスト

マッスル株式会社 ROBOHELPER SASUKE

機器の概要

移乗をアシストする介護ロボット

ROBOHELPER SASUKE (以下「SASUKE」とする)は、移乗をアシストするロボット介護機器です。「SASUKE」(RS1-12Y-B)は120kg以上の方を助けることができます。自分か他の方の両方、二人以上で移乗をおこなう方などの移乗介助の際に、介護をおこなう方と介護を受ける方の両方を軽減します。負担の軽減は、移乗介助時の介護を受ける方と介護をおこなう方の両方にコミュニケーションへ、移乗後の活動へ軽やかに繋がります。「SASUKE」による移乗介助は、介護を受ける方と介護をおこなう方と両方一定距離が保たれるため、介護をおこなう方は、安心して介護を受ける方が安心して移動できる状況で、安心して介護を受ける方が安心して移動できる状況で実施することができます。

持ち上げ方式による移乗



「SASUKE」には二本のアームがあり、このアームをベッド上で動かして専用のシート(以下シートとす)るの機構を組み込み、シート上に介護を受ける方をベッ

ドから搬上し持ち上げます。

持ち上げた状態でベッドから少し離し、アームを同時に昇降・移動(移動)させて、介護を受ける方の姿勢をしっかりと正しい角度や高さで調整し保持しながら、ゆっくと移すかスムーズに搬送します。

介護を受ける方の荷重を「SASUKE」が支えることにより、介護をおこなう方は、負担で、属直に搬降のしかたに慣れず移動して移乗介助を行います。二人以上で行っていた移乗介助が一人で済みます。また、「SASUKE」を用いた移乗介助は以下の特徴です。荷重は持つ必要はありません。もう一方の手が自由になるため介護を受ける方に添えるなど、より安全に移乗介助を行います。

製品仕様	
名称	ロボット介護機器 移乗アシスト ROBOHELPER SASUKE
型番	RS1-12Y-B
定価	192,000円(税別)
標準重量	70kg
最大積載重量(最大積載時)	120kg
最大積載重量(積載時)	100kg
最大積載重量(積載時)	100kg
最大積載重量(積載時)	100kg
最大積載重量(積載時)	100kg
最大積載重量(積載時)	100kg
最大積載重量(積載時)	100kg
最大積載重量(積載時)	100kg
最大積載重量(積載時)	100kg
最大積載重量(積載時)	100kg
最大積載重量(積載時)	100kg

※型番RS1-12Y-Bは、標準仕様です。オプション仕様は別途料金がかかります。

シート全面で身体を支える 揺れの少ない安定した移乗

介護を受ける方は、寝姿勢のままシートとベッドから動き上げられるため、シート面(点ではなく面)で身体を支えられます。面を支えられることにより、介護を受ける方の身体圧が分散されやすくなり、移乗時における負担が軽減し安定感を増やすことができます。また、介護を受ける方の身体上での移動で、褥瘡やシートの固定などの作業を行わずに済むため、視界を遮らず無駄な作業を減らせます。また、介護を受ける方に頼られることなく軽やかにリクライントした移乗が行えます。



充電式バッテリーで移動、ISO13482取得

「SASUKE」は、PSE 認証品であるバッテリーおよび充電器を使用しています。充電式(バッテリー)による移動のためコードレスで使用できます。コードレスとすることで、電気コードに足が引っかかり転倒などの危険性を回避しています。バッテリーの残量も簡単に表示、バッテリーの残量もバッテリー残量表示ランプにより一目で確認ができます。

電圧自立性 EMC (放射電波を放射しない)EMC、放射電波に対して動作しない)EMF)の試験合格、生活環境ロボットの国際安全規格 ISO13482の取得などにより安全性を確保しています。

脱衣室での使用が可能

「SASUKE」は、防水ではないため浴室内での使用には適しません。脱衣室で特別浴用シートレッグチャーター・機織器用シートなどへの移乗を行います。移乗後はシートを取り出すことなくそのまま特別浴機織器にて使用可能です。

18 | 介護ロボット導入活用事例集 2022

120kg以下の方への使用が可能

「SASUKE」(RS1-12Y-B)は120kg以下の介護を受ける方を介護おこなう方が一人でも軽やかに持ち上げることができ移乗介助を行います。

機器の導入事例

施設名	導入時期
社会福祉法人 社会福祉会 特別養護老人ホーム 緑園グリーンホーム (三重県) 2021年2月	
社会福祉法人 大和 社会福祉事業センター 特別養護老人ホーム ハートアップ平塚の社 (岐阜県) 2021年3月	
社会福祉法人 マグナス 特別養護老人ホーム マグナス日野 (東京都) 2022年2月	

機器の整備状況・使用状況

利用者居室内に保管

「SASUKE」の導入について、ユニット型の施設では、1ユニットまたは2ユニットに1台導入されています。100床規模の施設では「SASUKE」を2台導入され、日々実用にも活用されています。設置状況として、使用の対象となる利用者や入居者



SASUKE を利用者の居室や特別浴・脱衣室 廊下などに保管

■使用場面

「SASUKE」は毎食時のベッドと車いす間の移乗や、入浴時の脱衣所での車いすとストレッチャー間の移乗の場面に活用されています。各施設では、人の手による移乗の際に不穩が生じる方・皮膚損傷が生じやすい方の移乗介助に「SASUKE」を活用され、不穩がなくなった、皮膚損傷が軽減したとの報告があります。

■使用に際しての環境要件

「SASUKE」を使用いただくにはベッドと床について環境要件を確認する必要があります。移乗時に「SASUKE」の脚部がベッド下に入るため、ベッド下に7cm以上の空間が必要です。ベッド下のBom~10cmの空間が必要)など、状況に応じて、最適な提案をしています。



SASUKE を使用する様子

精神的な活用に至らなかった。しかし、移乗介助後の内出血などが増えたと利用者への事故対策として活用を開始し、「SASUKE」への慣れや、思ったより時間がからないうことを職員が理解し、対象の利用者に毎日使用するに至った。

●「SASUKE」を使っていくうちに、使えば体が楽なこと気づき、職員の腰痛予防に對しての意識も変化しました。

●機器の導入実績

●特別養護老人ホーム 緑園グリーンホーム
●希望時の施設状況により見学のご可否を確認する必要があります。見学ご希望の場合はマッスル株式会社にお知らせください。

機器の導入による介護業務の変化

■利用者への説明・影響

移乗介助時のトラブルが減った

人の手による二人介助を受けていた利用者8名のうち、3名の方は、移乗に伴う骨折、皮膚損傷などの身体的負担が生じていた。「SASUKE」導入後は、3名ともそれぞれ、これらの移乗介助時のトラブルが減ったと報告されています。

認知症高齢者の日常生活自立度レベルⅢ以上の認知症を有していた8名のうち、4名の利用者に、人の手による移乗介助後の不穩が生じていた。「SASUKE」による移乗介助後の利用者の様子は、8名中8名が「穏やかな様子」あるいは「介助前と変化なし」という報告もあります(図2)。

このように「SASUKE」による移乗介助は、利用者の身体的、精神的負担を軽減することができます。シートで利用者の身体全面を支えるので、安定して揺れの少ない移乗を提供できます。シートは伸縮性に優れたおり、利用者の体もスムーズに持ち上げます。シートは体分離開に動いているため、転倒の恐れが少なく、使用中に利用者自身が負担がからないようになっています(図3)。

●機器導入施設 責任者の声

職員の「働き方改革」は非常に重要なテーマ

当ホームの地域が抱えている課題は、鈴鹿市内の平均に比べて高齢化・生産年齢人口急減が進んでいることです。そのため、当ホームでは地域の情勢の2030年に近い状況であることを職員と共有し、10年先の介護の創造に向けて、トライアンドエラーで日々取り組んでいます。



施設長 堀野 裕典

その中で、職員の「働き方改革」は非常に重要なテーマです。外国人介護人材、介護助手などの人材と介護ロボット(現在、10機使用)、介護機器、ICTをフル活用していくことは決めて置かれています。「ROBOHELPER SASUKE」は、寝たきりの方向性のある方などの重度の利用者と職員ともに負担が少なく、職員の腰痛や介護事故の防止にもつながっており、安全に移乗介助ができています。重度の方の看護を支援することは、ご本人のQOL(生活の質)向上にもつながっています。また、ご家族も介護ロボットなどのテクノロジーを活用していくことについて、肯定的に見えていたため、介護現場の革新を進めていきたいと思っています。(2021年度に三重労働局より安全衛生に係る優良事業場として「安全衛生努力賞」を受賞しました)

介護ロボット導入活用事例集 2022 23

●機器導入施設の声

人為的なミス、事故に繋がりにくい

「SASUKE」は簡単な操作方法であり、人為的なミス、事故に繋がりにくく、今のことろよりリハビリ、事故事例はゼロです。動作スピードは遅くても多少時間は掛かりますが操作中心の利用者の表情を確認したり、声掛けなどのコミュニケーションの時間として見えます。施設案内時に様々な介護ロボットを紹介しますが、その中でも見学者の方々の「SASUKE」に対する反応が一番すばらしいので、いつも良いPR材料として大切に活用させていただいています。

●社会福祉法人 社会福祉会 特別養護老人ホーム 緑園グリーンホーム



令和4年度に協力した主な実証事業

厚生労働省 令和4年度老人保健健康増進等事業

事業名	日程	実施(委託)機関
「介護味`ット等による生産性向上の取組に関する効果測定事業」	5月～	株式会社三菱総合研究所様
「LIFEを活用した取り組み状況の把握および訪問系サービス・居宅介護支援事業所におけるLIFEの活用可能性の検証に関する調査研究」(LIFEモデル事業)	8月～	株式会社三菱総合研究所様
「科学的介護に向けた質の向上支援等事業」	11月	株式会社三菱総合研究所様
「認知機能の評価表検証調査」		みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社様
「介護施設等におけるカメラAI°の見守り機器の効果的な活用に向けた実態調査に関する実態調査研究事業」	12月	株式会社日本総合研究所様
「リハビリテーション・機能訓練、口腔、栄養の一体的取組に関する調査研究事業」		一般社団法人日本健康・栄養システム学会様
「介護サービスの質の評価指標の開発に関する調査研究」		PwCコンサルティング 合同会社様
「介護現場での自立支援促進に係る取組に関する調査」		PwCコンサルティング 合同会社様
「科学的介護に向けた質の向上支援等事業 事例収集」	12月 ～	株式会社三菱総合研究所様
「居宅介護支援および介護予防支援における令和3年度介護報酬改定の影響に関する調査研究事業」		株式会社三菱総合研究所様
「認知症の認知機能、生活機能の評価尺度のあり方に関する調査研究事業」		みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社様

その他

時期	主催等	内容
2022.4	株式会社フルノシステムズ様	ICT活用にかかるネットワーク環境に関する取材(2022.4.27)
	エニギルタQOLソリューションズ様	実証事業報告、見守り支援システム等の現場活用に関する意見交換(2022.4.19)
	社会福祉法人慈童会様	インカム、ICT、介護ロボット等の現場活用に関する意見交換、見学(2022.4.19、27)
2022.5	株式会社三菱総合研究所様	LIFEに関する意見交換(2022.5.11他)
	& Consulting Firm様	ICT、IoT等に関する意見交換(2022.5.17)
	株式会社ジェイテクト様	他施設へのパワーアシストスーツ「J-PAS」の運用状況説明(2022.5.18)
2022.6	栃木県老人福祉施設協議会様	「LIFE研修会(オンライン)」講師(2022.6.26)
2022.9	国際医療福祉大学様	社会福祉運営管理論(オンライン)オブザーバー(2022.9～2023.1)
	長野県高齢者福祉事業協会様	「LIFE研修会」講師(2022.9.29)
2022.10	国際医療福祉大学様	社会福祉運営管理論(オンライン)講師(2022.10.21)
2022.11	福岡県老人福祉施設協議会 居宅介護部 会様・次世代部会様	「LIFEにより求められる事業所の変化」アドバイザー登壇(2022.11.11)
	三重県社会福祉協議会様(三重県委託事業)	「みえふくし・介護フェア2022(特設Webサイト)」映画「つむぐもの」犬童一利監督とのオンライン対談(2022.11.12)
	岐阜県老人福祉施設協議会様	「LIFE研修会」講師(2022.11.30)
2022.12	島根県老人福祉施設協議会様	「LIFE研修会」講師(2022.12.12)
	九州工業大学 柴田智広教授 株式会社ジェイテクト様	パワーアシストスーツ「J-PAS fleairy」にかかる使用状況ヒアリング(2022.12.14)
	Voxela様	AI画像解析技術による事故検知・防止サービス「Voxela VCare」についてのミーティング(2022.12.27、2023.3.2)
2023.1	新潟県老人福祉施設協議会様	「LIFE研修会(オンデマンド)」講師(2023.1.17～)
2023.2	山本佐知子参議院議員	視察「介護現場でのテクノロジーの利活用」
2023.3	ヤマモリ株式会社様、三重県薬務課、 公益財団法人三重県産業支援センター様	食事提供に関する視察
	国際医療福祉大学様	「第1回若手介護経営者勉強会、意見交換会」出席

『ホームページ』で全て公開

1日1記事以上のペースで、ホームの日常などを公開

(3.3万ユーザー・年間30万ページビュー※、海外からのアクセスも)※令和3年度

『活動内容は全てホームページで公開』

～活動を広く知っていただく取り組み～

日々動きがあるホームページを目指し、私たちから積極的に中身を公開

「ええな～！」ボタンを設置しています。
ぜひみなさまも「ええな～！」してみてください。
い。スタッフも励みになります



社会福祉法人 鈴鹿福祉会 鈴鹿グリーンホーム [公式サイト]
(suzuka-greenhome.jp)





鈴鹿グリーンホーム

私たちは、地域に信頼されるべき
存在であり続けます

